

これで備える

東京の気象防災



2018 年 1 月 23 日 東京の露場（北の丸公園）

2018 年 1 月 22 日、低気圧が南岸を進み夜は伊豆諸島付近へ。北日本の一部を除き全国的に雨や雪、関東中心に大雪。東京で最深積雪 23cm となった。20cm 超は 2014 年 2 月以来 4 年ぶり。

東京管区气象台
気象庁大気海洋部予報課
2024 年 9 月 28 日

まえがき

本書は、東京都の地域防災支援強化を目的として作成しました。
東京の気象特性や主な気象災害の記録、研究などで得られた知見を載せており、この一冊で東京の気象について概要を把握できる資料構成としています。
この冊子が皆様の一助になれば幸いです。

2023 年 3 月 15 日
東京管区气象台・気象庁大気海洋部予報課

内容

1. 地勢・気象特性	2
1.1. 関東甲信地方の地勢・気象特性	2
1.1.1. 地勢	2
1.1.2. 気象特性	2
1.2. 東京地方・伊豆諸島の気象特性	6
1.2.1. 周辺の地形と海面水温	6
1.2.2. 海陸風と降水の関係	7
1.2.3. 関東平野の冷氣層とそれに関する現象	8
1.2.4. 寒冷前線通過後や冬型気圧配置での、日本海からの下層寒気の流入とそれに関する現象	12
1.2.5. 下層の西～南西風に関する現象	15
1.3. 小笠原諸島の地勢・気象特性	17
1.3.1. 地勢	17
1.3.2. 気象特性	18
1.4. 予報則	21
2. 基礎資料	28
2.1. 地域細分	28
2.2. アメダス配置図と風配図	30
2.3. 平年値（1991 年～2020 年）からみた特徴	34
2.4. 主な災害記録	35

改訂履歴

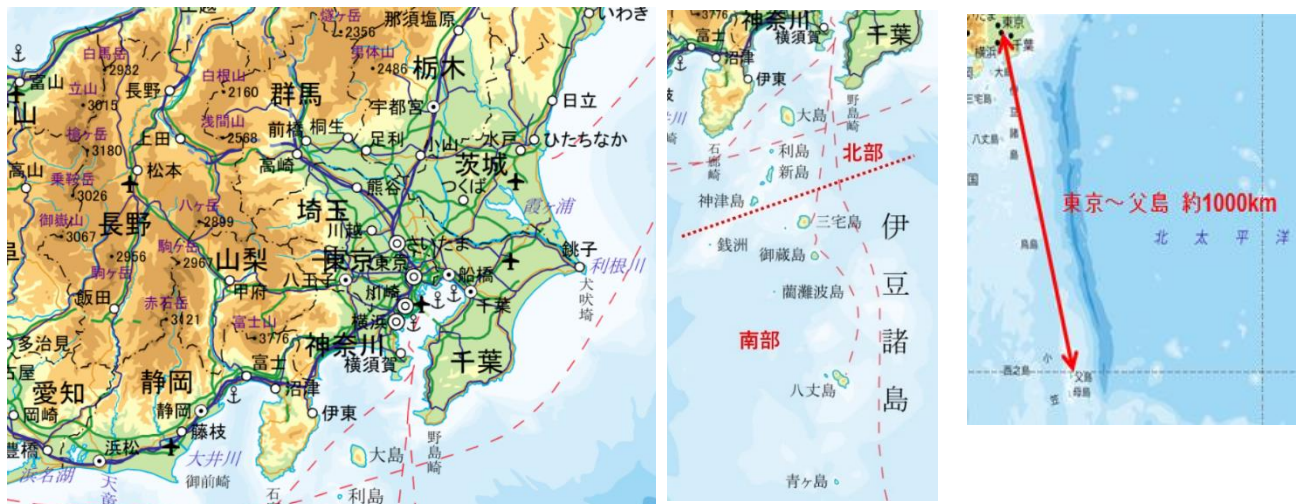
2023.3.23 前書き追加、「主な災害記録」に 2021 年と 2022 年版を追加、予報則「南岸低気圧による大雪」を追加
2023.5.25 1.3.1 の誤記を修正
2023.10.20 2.2 観測所一覧を修正
2024.9.28 「主な災害記録」に 2023 年版を追加

1. 地勢・気象特性

1.1. 関東甲信地方の地勢・気象特性

1.1.1. 地勢

関東甲信地方は、日本最大の平野である「関東平野」が中央に広がり、北西側は山岳地帯、東南側は太平洋に面する。関東の東部には房総半島（千葉県）、南部には三浦半島（神奈川県）が太平洋に突き出しており、房総半島と三浦半島の間に東京湾、三浦半島と真鶴半島（神奈川県）の間に相模湾を形成する。



地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

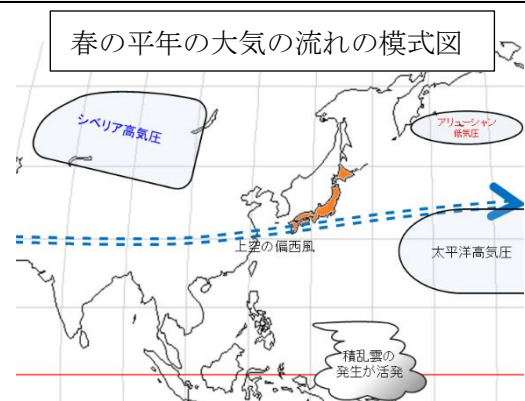
1.1.2. 気象特性

春（3～5月）

低気圧と高気圧が交互に日本付近を西から東へ通過する。低気圧の通過に伴って気温は大きく変動し、天気は数日の周期で変わる。

日本海で低気圧が急速に発達すると暖かく強い南風が吹くことがあり、その年で初めて吹くものは「春一番(※)」と呼ばれる。一方で、低気圧通過後には寒気が流入することがあり、風が弱く良く晴れた朝には放射冷却の影響で「遅霜」が降りることもある。

※春一番は、冬から春への移行期に初めて吹く暖かい南よりの強い風。気象庁の定義では、2月4日ごろの立春から3月21日ごろの春分までの間に、広い範囲で初めて吹く暖かく（やや）強い南風のことを言う。



夏（6～8月）

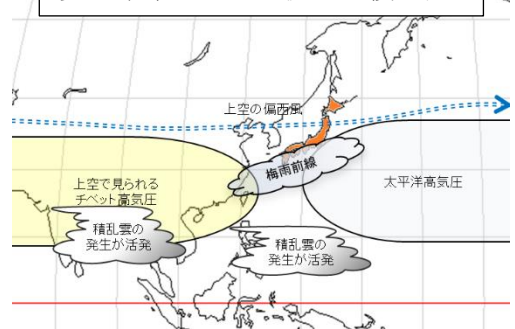
7月中旬までは梅雨の時期で、梅雨前線が現れ、曇りや雨の日が多くなり、大雨となることもある。7月下旬には、梅雨が明け太平洋高気圧に覆われるようになり、気温が高く、日照時間が多くなる。

また、「高温の要因」には、都市化の影響も含まれている。

※関東甲信地方の梅雨入り・明けの平年

- ・梅雨入り：6月7日ごろ
- ・梅雨明け：7月19日ごろ

夏の平年の大気の流れの模式図

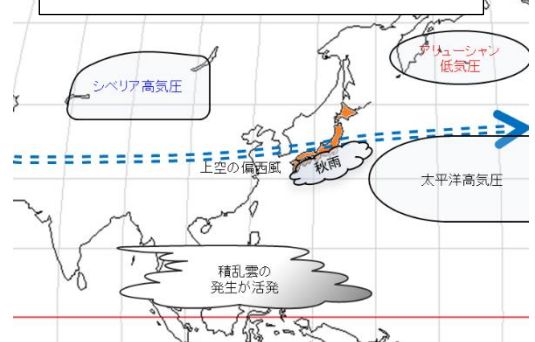


秋（9～11月）

高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で替わるようになる。9月から10月にかけては、秋雨前線や台風の影響で降水量が多くなるため、「秋の降水量」は年間で最も多くなる。

また、台風や上空の寒気などにより活発化した秋雨前線などの影響により、「突風や竜巻」などの被害を受けることもある。

秋の平年の大気の流れの模式図



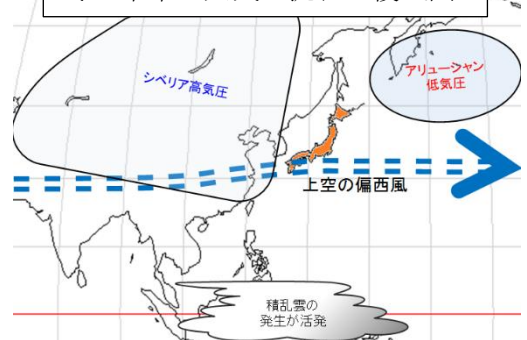
冬（12～2月）

大陸でシベリア高気圧が勢力を強め、太平洋北部ではアリューシャン低気圧が発達して、西高東低の冬型の気圧配置となり、大陸からの寒気が流れ込む。

この季節には、長野県北部や群馬北部などの山岳部や山間部では、日本海から流れ込む雪雲の影響を受け、雪の降る日が多くなるが、乾いた風が吹き降りる平野部では、晴れの日が多くなるなど「地形の特徴」がみられる。

一方、冬型の気圧配置が崩れ、関東甲信地方の南岸を低気圧が通過する際には、平野部では曇りや雨となるが、寒気が強い時には雪となり、「大雪」となることもある。

冬の平年の大気の流れの模式図



平年の天候について

<気温>

8月頃が最も高く、1月頃が最も低くなっている。一般的に、銚子や大島といった沿岸部や島より、長野や甲府といった内陸の方が気温の変化は大きくなる。

埼玉県熊谷などでは日最高気温が 35℃を超える猛暑日が、東京などでは夜間に気温が 25℃未満にならない、いわゆる熱帯夜と呼ばれる日が多くなっている。

<降水量>

梅雨の影響を受けて6月頃と、秋雨・台風の影響を受けて9月頃に多くなりやすくなっている。主に夏には、大気の状態が不安定な時に地上面付近の温度が高くなると、局地的な大雨となることもある。主に冬には、冬型の気圧配置の影響で多くの地域で年間に最も降水量の少ない時期となるが、一部の山岳部や山間部では雪が降り、多くなる。

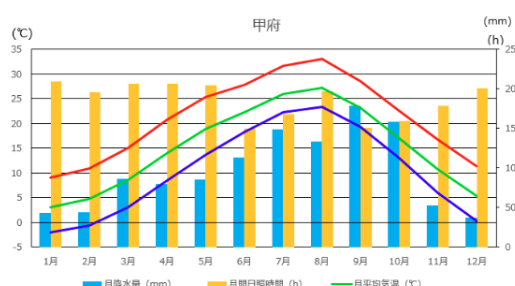
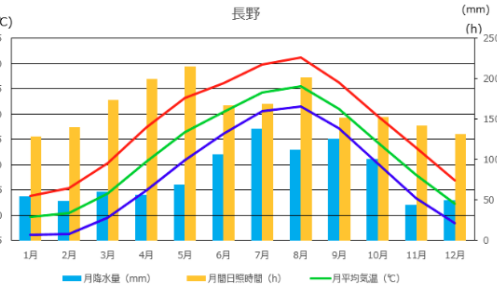
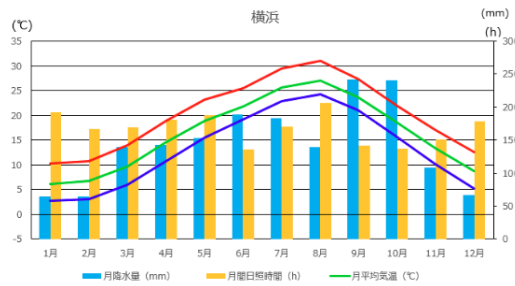
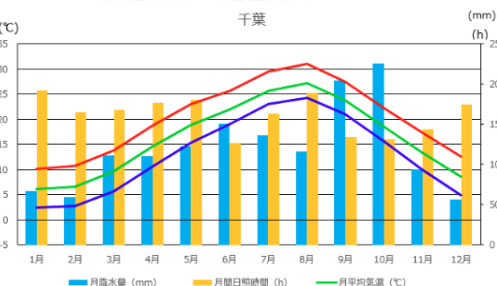
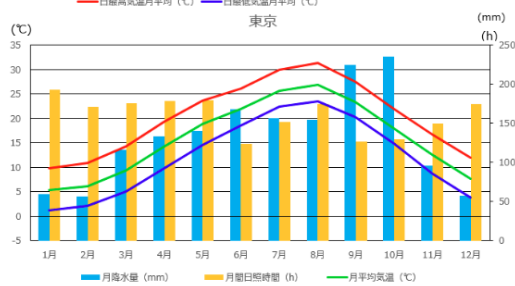
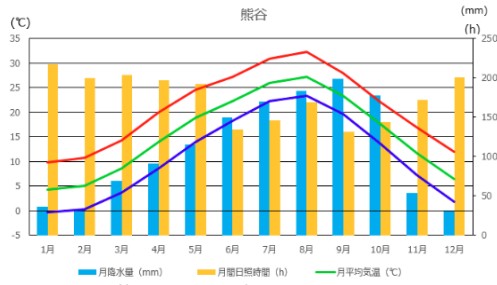
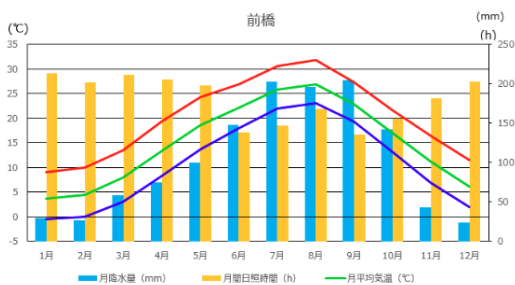
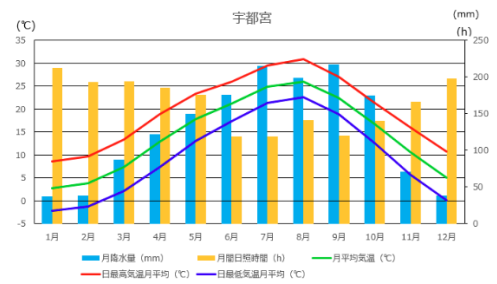
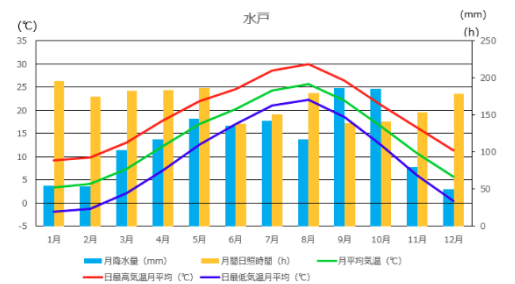
<日照時間>

関東甲信地方では、多くの地域で西高東低の冬型の気圧配置となる冬に最も長くなり、梅雨の影響を受けやすい6月頃や秋雨・台風の影響を受けやすい9月頃に短くなる。

一部の山岳部や山間部では、降雪量の増える冬に最も短く、夏に長くなる傾向がある。

関東甲信地方各地における 1991 年～2020 年の 30 年間での平年値

	年平均気温	年間降水量	年間日照時間
水戸	14.1	1367.7	2000.8
宇都宮	14.3	1524.7	1961.1
前橋	15.0	1247.4	2153.7
熊谷	15.4	1305.8	2106.6
東京	15.8	1598.2	1926.7
千葉	16.2	1454.7	1945.5
横浜	16.2	1730.8	2018.3
長野	12.3	965.1	1969.9
甲府	15.1	1160.7	2225.8



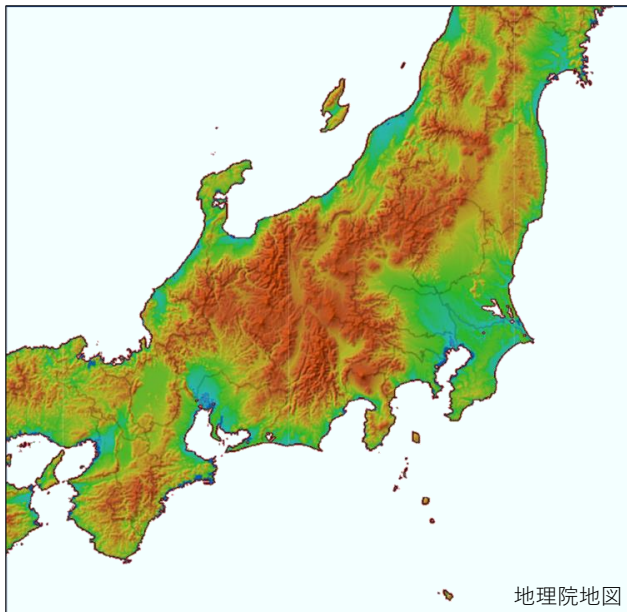
関東甲信地方における 1991 年～2020 年の 30 年間の月別平年値

1.2. 東京地方・伊豆諸島の気象特性

1.2.1. 周辺の地形と海面水温

関東地方は平地が広く、西～北が山地、東～南は海となっている。また、海流の影響等により、関東の南海上と東海上では海面水温に差がある。このような地形や海面水温の特徴が、東京地方・伊豆諸島で発生する気象現象に大きく関わっている。

周辺の地形



地理院地図

地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

関東地方は

平地が広く、西～北が山地
東～南は海となっている

このような地形が、

海陸風

→ESシアー

関東平野の冷氣層

→温暖前線の変形

→沿岸前線

→平地の雪

日本海からの下層寒気の流入

→寒冷前線の変形

→東京地方や

伊豆諸島の強風

→関東南海上のシアーライン

下層西～南西風

→降水への影響

→気温上昇や沿岸部の強風

…に関与

※ESシアー：東より（East）の風と南より（South）の風との不連続線（シアーライン）を指す

海面水温分布

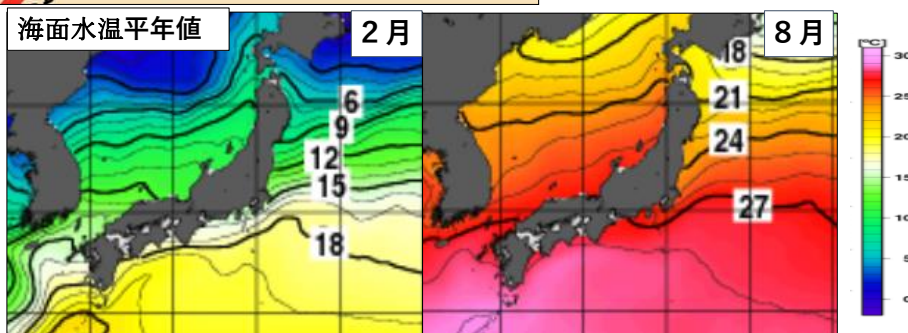


海流の影響等により、関東の南海上と東海上で海面水温に大きな違いがある

このため、関東に流入する気流は流入する方向で性質に差がでる

→北東風は冷湿に、南風は暖湿になりやすいなど…

海面水温平年値

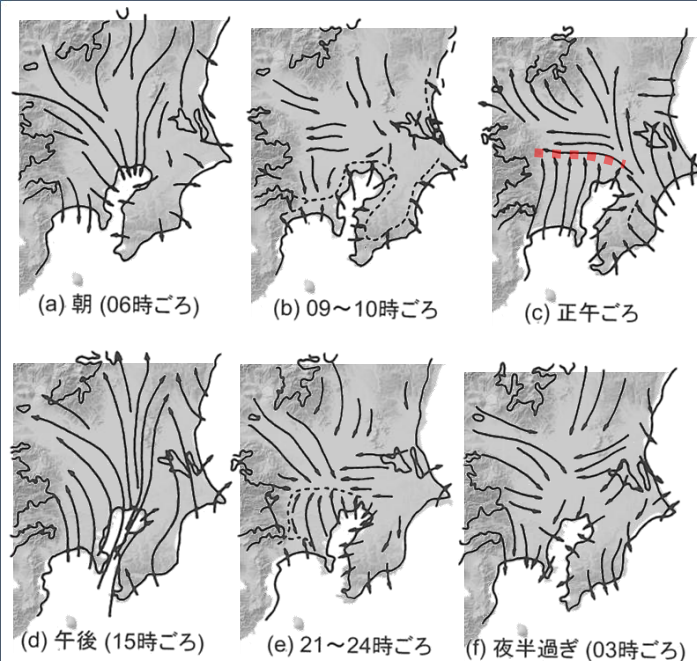


1.2.2. 海陸風と降水の関係

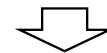
平均的には、朝～昼前は沿岸部で海風、内陸で谷風となるが、昼頃になると海風と谷風が結合し海風が内陸まで流入する（広域海風）。そして、鹿島灘・房総沖からの海風と相模湾からの海風との間でシアラインが形成されることがある（下図（c）の赤点線）。これは E-S シアーと呼ばれ、大気が 湿潤・不安定な場合はシアライン近傍で警報級の雷雨となることがある。

海陸風

暖候期・高気圧圏内での平均的な風の日変化



9時前後は、沿岸部で海風、内陸で谷風(b)



昼頃から両者が結合して「広域海風」となる(c・d)

←河村武(1977): 海陸風の気候, 南関東大気環境調査報告書, 気象庁

(地理院地図を重ねて表示 また、赤点線を追加)

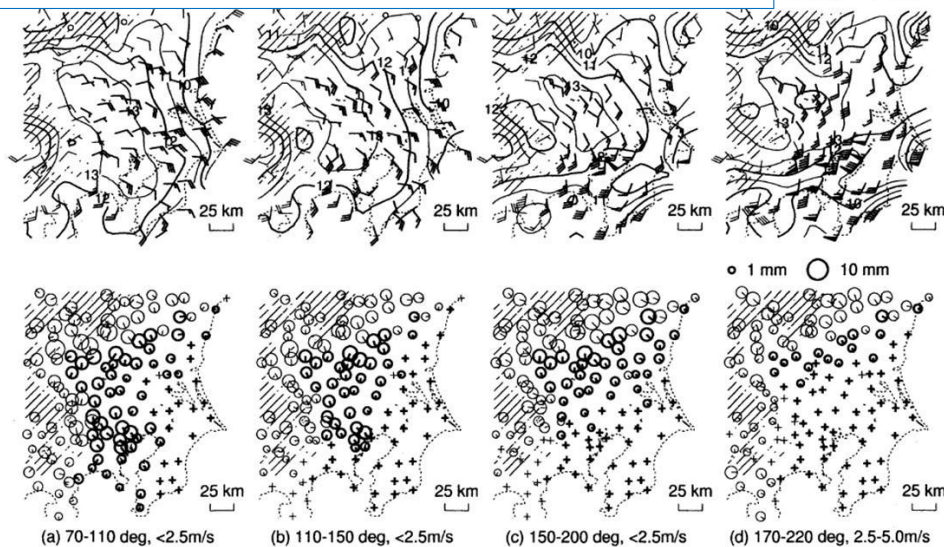
地図出典: 国土地理院
<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

海風と降水の関係

海風の収束域で降水！
 (a)(b)の東京付近の雨はESシア-による

平均した気温・風・雨量分布 (1018例を, 14時の平均風で分類)

1 ms⁻¹ 5 ms⁻¹



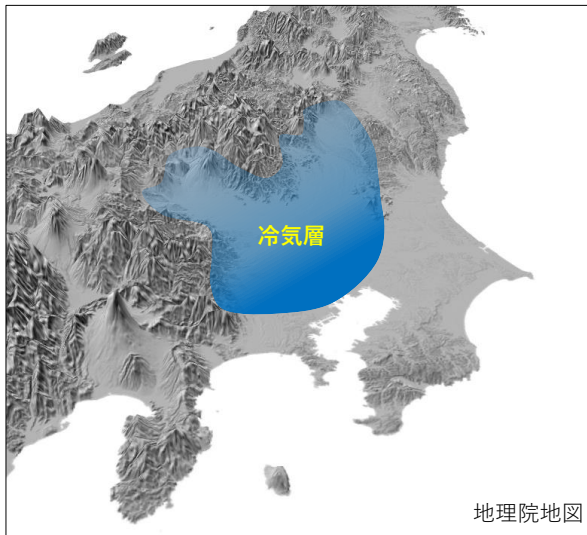
第8図 風系別の統計 (第5節) による14時の地上風・地上気温分布と12～24時の降水量分布。図の描き方は第1, 2図と同じ。○の面積が降水量に比例し, +は1mm未満を表す。

藤部他(2003): 関東平野における夏季高温日午後の降水分布と地上風系との関係, 天気 50

1.2.3. 関東平野の冷氣層とそれに関する現象

関東地方は、西～北が山地となっているため、内陸を中心に冷気が滞留・発達しやすく、冷氣層を形成することがある。冷氣層内は気温が低く風が弱い。そして、視程が悪化しやすい、汚染物質が閉じ込められやすいといった特徴もある。

関東平野の冷氣層



地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

関東地方は、西～北が山地となっているため、内陸を中心に冷気が滞留・発達しやすく、冷氣層を形成することがある

冷氣層内では、
気温が低く風が弱い
視程が悪化しやすい
汚染物質が閉じ込められやすい

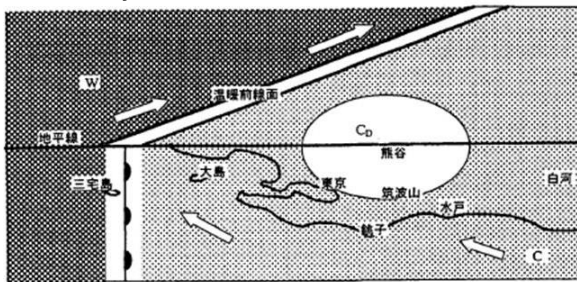
冷氣層は
温暖前線の変形
→前線通過が不明瞭
→通過後の気温上昇や
風の強まりがない
沿岸前線による大雨
関東平野部の雨・雪判別

…等に関係

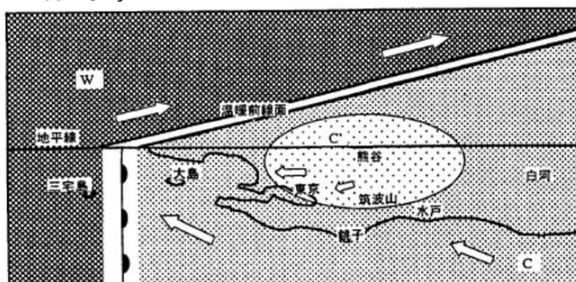
冷氣層は、関東内陸の下層に滞留していた乾いた空気塊が、降水の蒸発冷却により冷え、それが関東平野に広がったものである（冬季は雪の融解冷却も加わる）。

冷氣層の成因

(a) 12時



(b) 15時

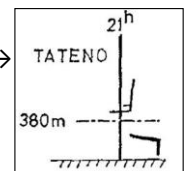


関東内陸の下層に滞留していた乾いた空気塊が、降水の蒸発冷却により冷えて、関東平野に広がり冷氣層が形成される

冬季は雪の融解冷却も加わる

* 降水により、何℃位の気温になるかは、湿球温度が目安となる。湿球温度はおおむね気温と露点温度の間。
(東京管区气象台, 2018: 平29年度管区推奨調査研究)

* 冷氣層の厚さは400m程度→



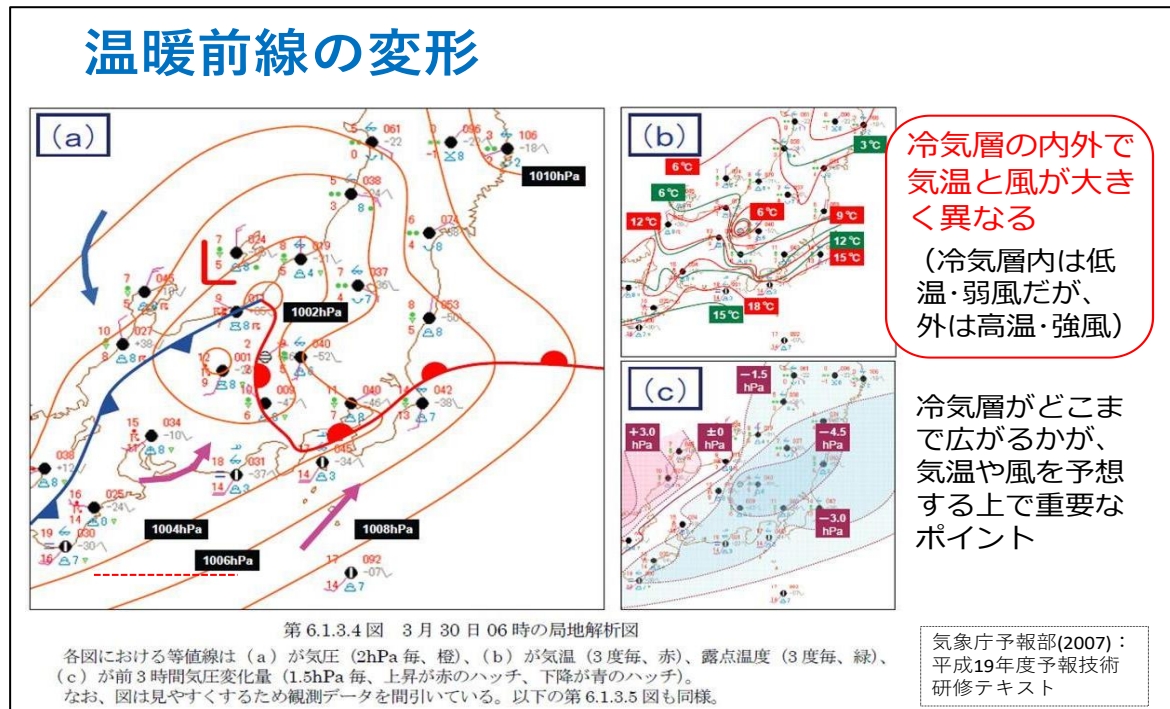
← (概念モデル)

(a) で寒気団中の内陸下層に滞留していた乾いた局地寒気塊 C_0 が、(b) で寒気団の中でもより冷たい湿った気塊 C' に気団変質する様子を表している。

(富山(2001): 関東地方の降雪にかかわる気温急降下, 天気 48)

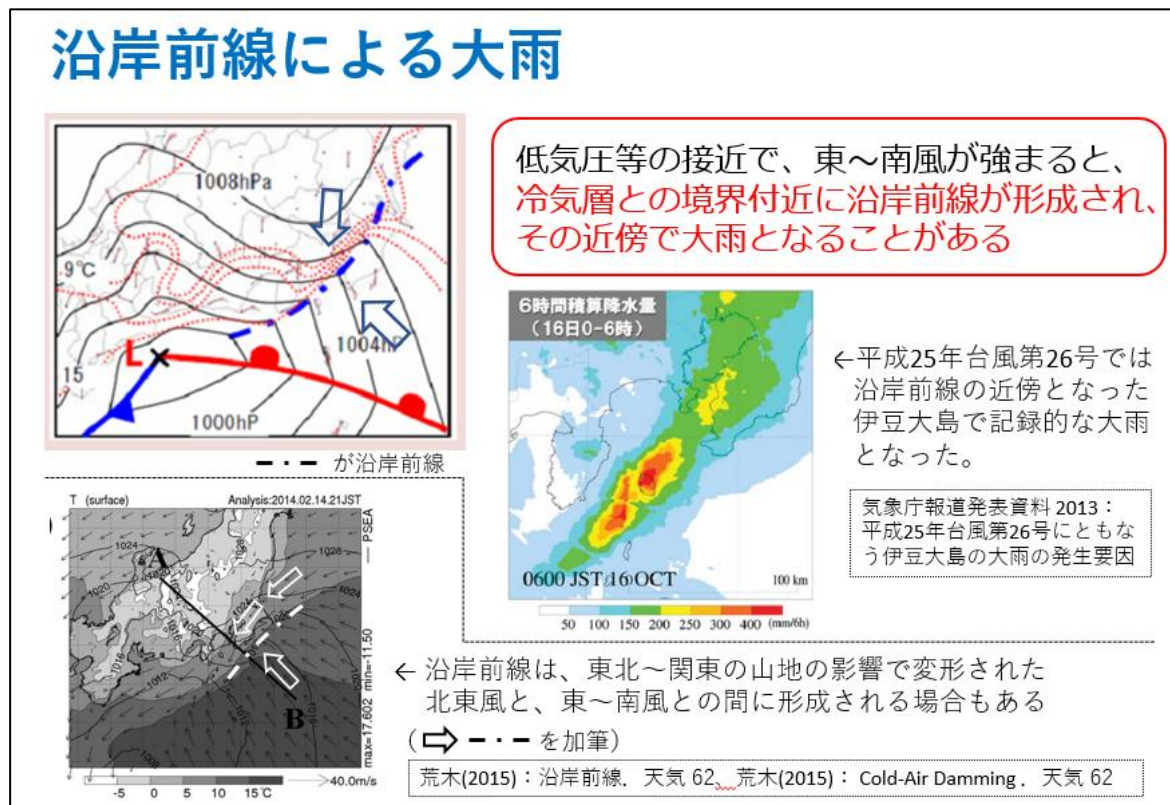
【 冷氣層に関する現象（温暖前線の変形） 】

冷氣層が形成されると、温暖前線の通過があっても、冷氣層内では前線通過後の気温上昇や風の強まりがない。冷氣層がどこまで広がるかが、気温や風を予想する上で重要なポイントとなる。



【 冷氣層に関する現象（沿岸前線による大雨） 】

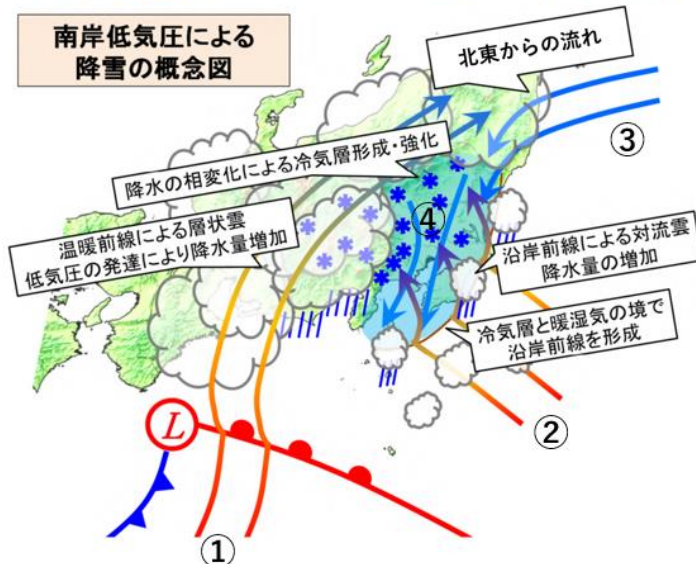
低気圧等の接近で、東～南風が強まると、冷氣層との境界付近に沿岸前線が形成され、その近傍で大雨となることがある。なお、沿岸前線は東北～関東の山地の影響で変形された北東風と東～南風との間に形成される場合もある。



【 冷気層に関する現象（雨・雪判別） 】

南岸低気圧で降雪となる場合、関東平野は、関東平野に流入する三つの流れ（①温暖前線を滑昇する流れ、②前線前面の東よりの流れ、③北東からの流れ）と④冷気層が重なった構造をしている。そして、これらすべてが 0°C 程度まで低くないと雪とはならない。②③の流れは海面水温の影響を受けて地上付近は比較的高温となるため、平地で雪になるには、冷気層の存在が重要となる。

南岸低気圧での雨・雪判別



南岸低気圧で降雪となる場合、関東平野は、

- ①温暖前線を滑昇する流れ
- ②前線前面の東よりの流れ
- ③北東からの流れ*

④冷気層
が重なった構造をしている
各層すべてが 0°C 程度まで
低くないと雪とならない

*③はない場合もある

②③は海面水温の影響で
地上付近は比較的高温。

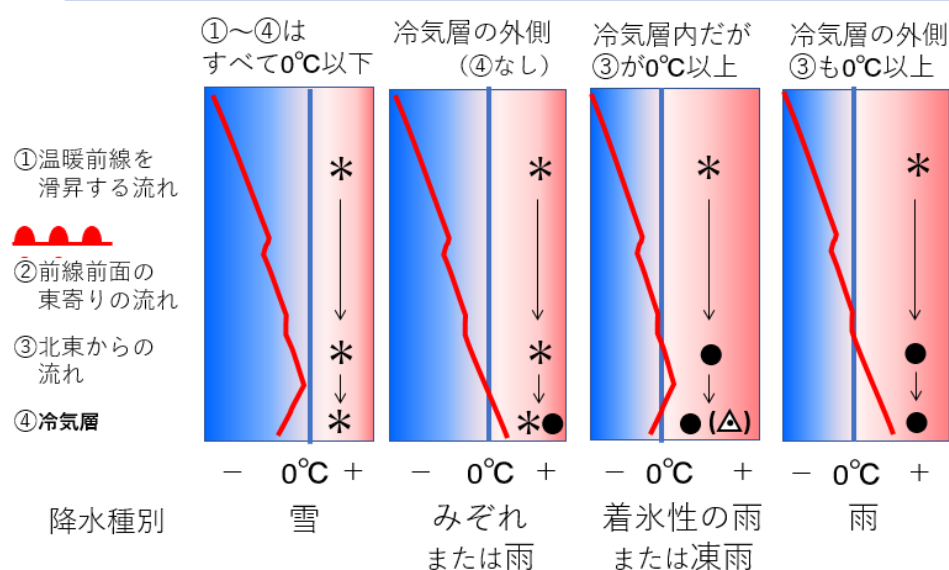
平地で雪となるためには、
冷気層の存在が重要

記号①②③④は加筆、図中説明を一部修正

東京管区気象台(2018)：平成29年度管区推奨調査研究成果報告書

南岸低気圧での雨・雪判別

気温の鉛直プロファイルと降水種別の関係（イメージ）



(参考) 冬型での雨・雪判別

- ・ 冬型では、大陸から流れ込む寒気が、海面から熱と水蒸気の供給を受け変質、変質した気層内で対流雲が発生、降水をもたらしている
- ・ 変質した気層内の気温減率（湿潤断熱減率）から地表付近までの気温を想定し、雨・雪を判別（陸上は冷氣層も考慮）*

* 例えば、 $T_{850} = -9^{\circ}\text{C}$ なら地表付近まで 0°C 以下なので雪、 $T_{850} = -6^{\circ}\text{C}$ なら500m付近から下は 0°C 以上なので、冷氣層がなければ一部が融解しみぞれ・・・と判断できる

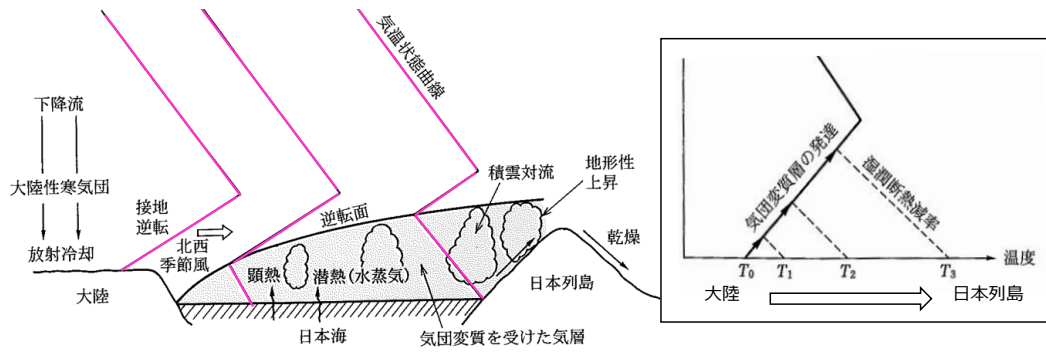
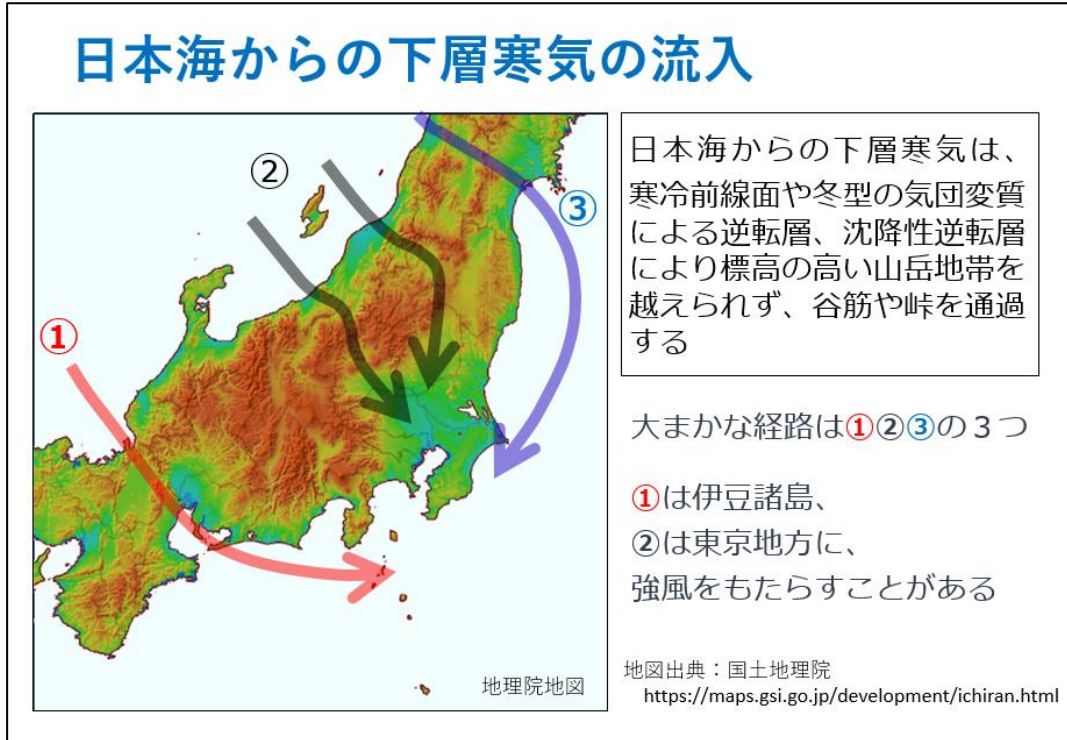


図 10・8 日本海沿岸の降雪のモデル図

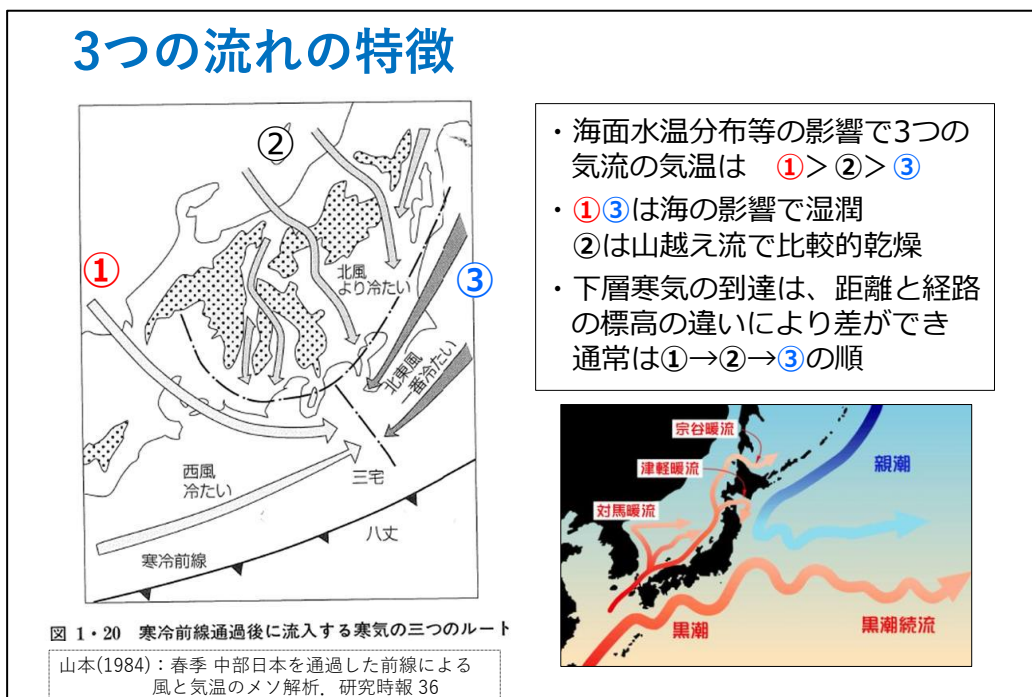
二宮（2002）図解・気象の基礎知識

1.2.4. 寒冷前線通過後や冬型気圧配置での、日本海からの下層寒気の流入とそれに関する現象

寒冷前線の通過後や冬型気圧配置のときは、関東地方には日本海側から下層寒気が流入する。日本海からの下層寒気は、寒冷前線面や気団変質等による逆転層によって、標高の高い山岳地帯を越えられず、谷筋や峠を通過する。おおまかな流入経路は下図①②③となるが、①の伊勢湾を吹き抜ける流れは伊豆諸島に、②の新潟県境を超える流れは東京地方に強い風をもたらす。

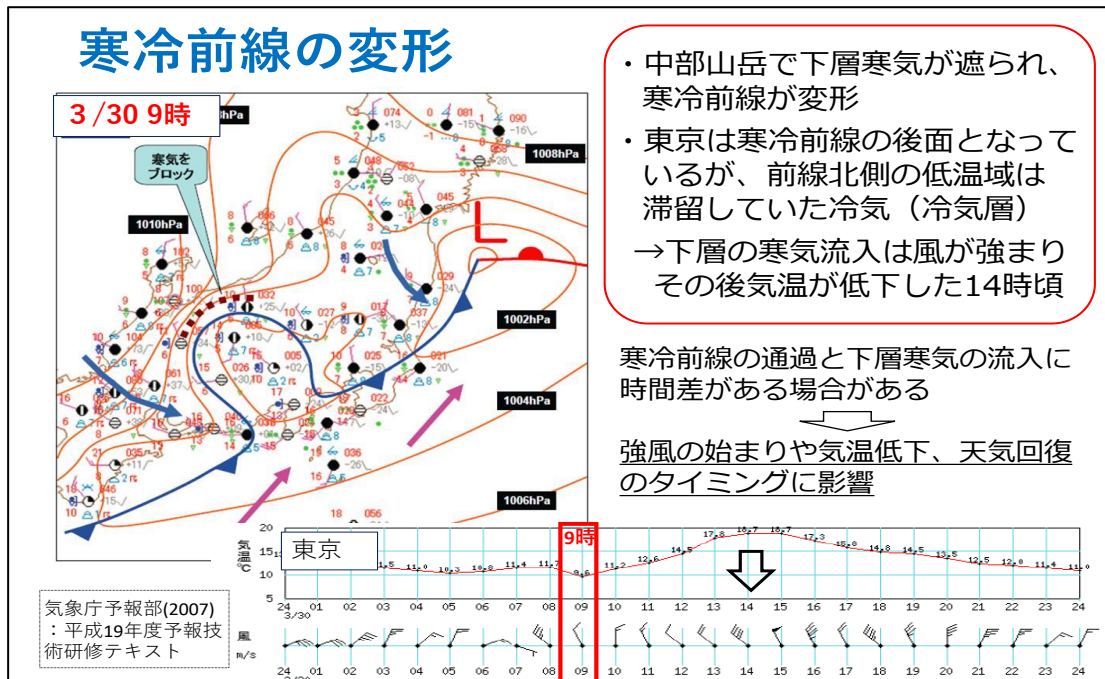


日本海からの3つの流れは、流入経路の違いにより気温および湿度に差が出来る。また、経路の距離や標高の違いにより、関東に到達するタイミングも異なる。これらが、次に説明する寒冷前線の変形や関東南海上のシアーラインの形成や構造に関係している。



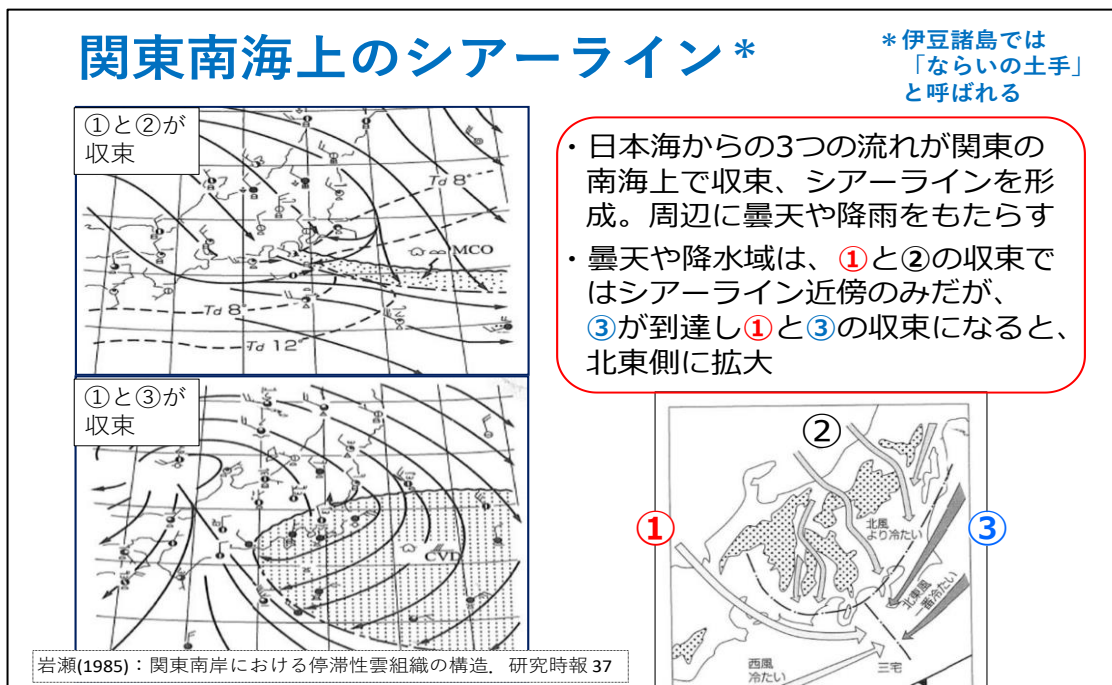
【日本海からの下層寒気流入に関係する現象（寒冷前線の変形）】

下層寒気が山岳地域で遮られることで、寒冷前線が変形する。また、東京では、冷氣層の影響で、寒冷前線通過と下層寒気流入に時間差ができ、強風や気温低下、天気回復が遅れることがある。



【日本海からの下層寒気流入に関係する現象（関東南海上のシアーライン）】

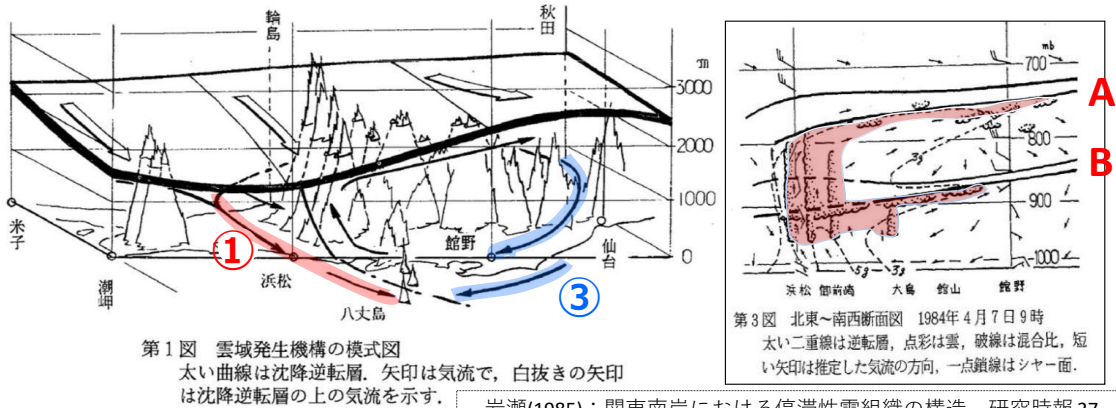
日本海からの 3 つの流れが関東南海上に到達すると、シアーラインが形成される。①と②の収束では曇天や降水域はシアーライン近傍だが、③が到達し①と③の収束になると、北東側に拡大する。



①は、③より海面水温の高い領域を通過するため、③より高温となる。このため、シアーラインは北東側で③の上に①が乗り上げた構造をしており、その上には気団変質または沈降による逆転層が存在する。そして、シアーライン近傍には対流性の雲、二つの逆転層の下には層状性の雲が広がる。

関東南海上のシアーラインの構造

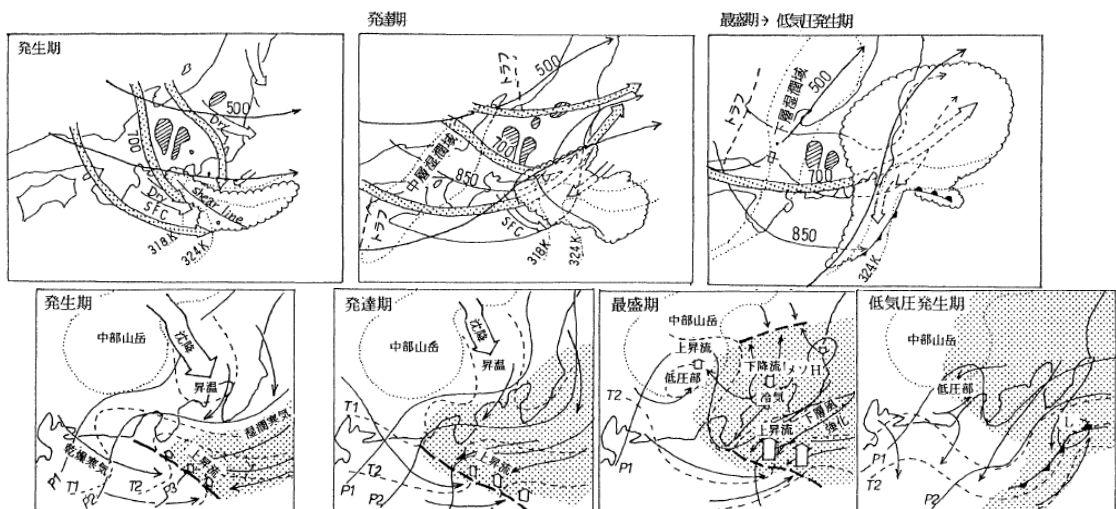
- ・シアーラインの北東側で、③の上に①が乗り上げる構造
(両者の境界が右下図の逆転層B) → 海面水温の影響で①が③より高温のため
- ・その上には、気団変質または沈降による逆転層が存在 (右下図のA)
- ・シアーライン近傍に対流性の雲、二つの逆転層の下に層状性の雲が広がる (右下図の茶色ハッチ)



上層トラフの接近で、シアーライン上に小低気圧が発生することがある。そうすると、雲域がさらに北に拡大し、関東の広い範囲に曇天や降雨・降雪をもたらすことになる。

シアーライン上に発生する小低気圧

- ・上層トラフの接近で、シアーライン上に小低気圧が発生
- ・雲域が北に拡大、関東の広い範囲に曇天や降雨・降雪をもたらす

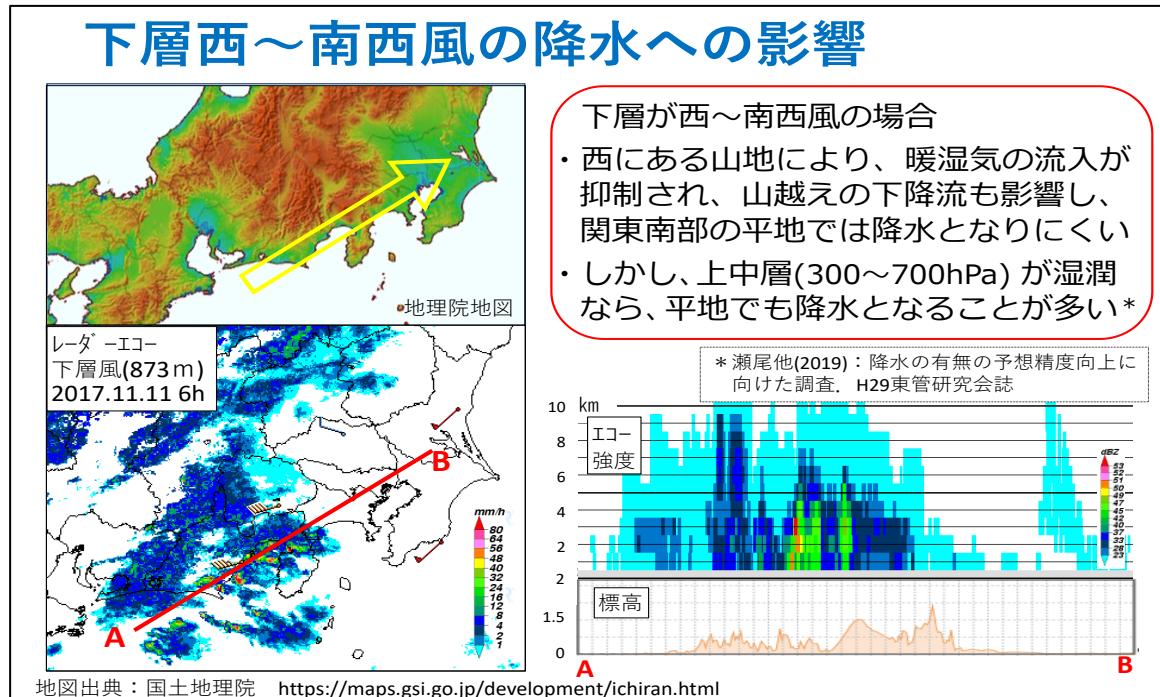


気象庁予報部予報課(1992): メソ量的予報技術の確立について. 研究時報44

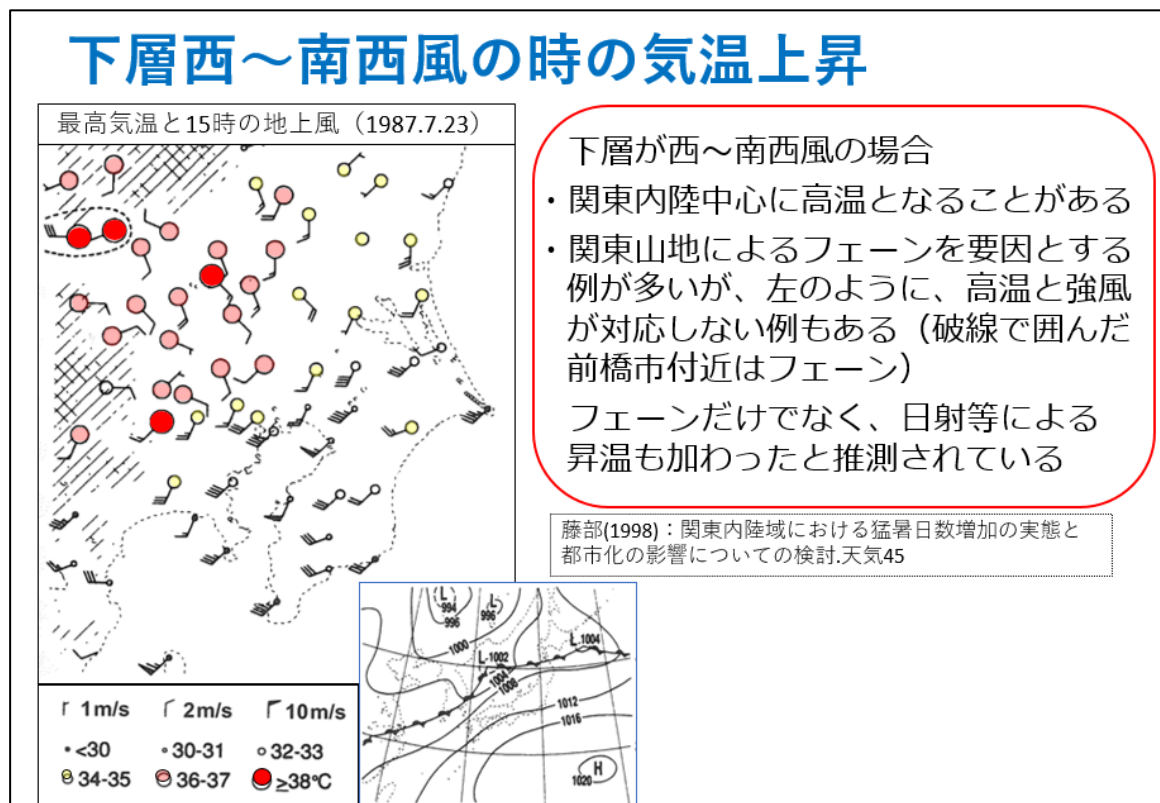
P: 等圧線、T: 地上等温線、ハッチ: 下層雲域

1.2.5. 下層の西～南西風に関係する現象

下層が西～南西風の場合、西にある山地の影響により、関東南部の平地では降水となりにくい。しかし、上中層(300～700hPa) が湿潤なら、平地でも降水となることが多くなる。



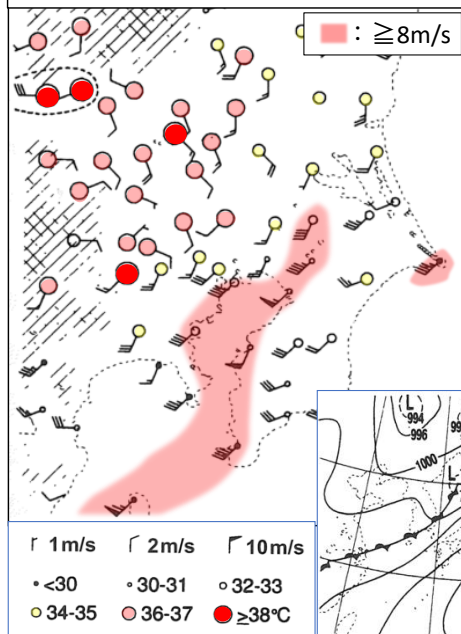
下層が西～南西風の場合、関東山地によるフェーンや日射等による昇温により、関東内陸中心に高温となることがある。



下層が西～南西風の場合、関東内陸に地形性低気圧（低圧部）が形成され、それが、内陸の気温上昇で強化されることがある。そうすると、東京湾付近で気圧傾度が急となり、局地的に風が強まる。

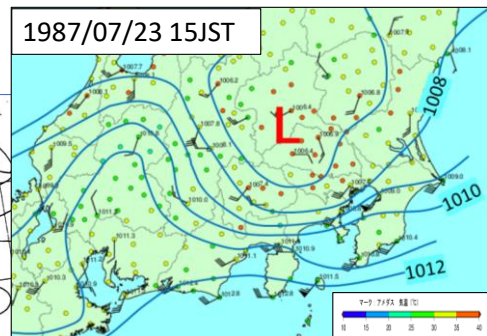
下層西～南西風時の東京湾付近での強風

最高気温と15時の地上風（1987.7.23）



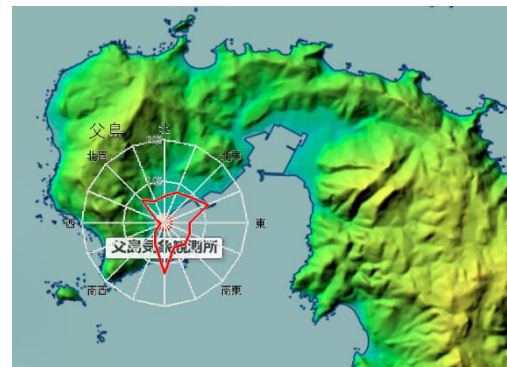
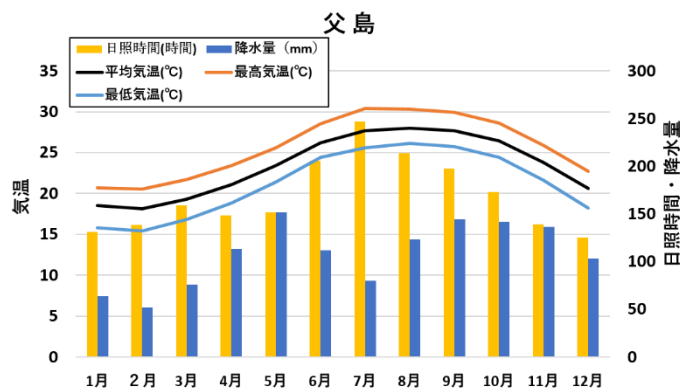
- ・下層西～南西風時には、関東内陸に地形性低気圧（低圧部）が形成され、それが、内陸の気温上昇で強化されることがある
- ・そうすると、東京湾付近で気圧傾度が急となり、局地的に風が強まる

1987/07/23 15JST



1.3.2. 気象特性

小笠原諸島は亜熱帯に位置し、温暖多湿な海洋性の気候である。



※降水量と日照時間は月合計

父島の地形の一部と風配図

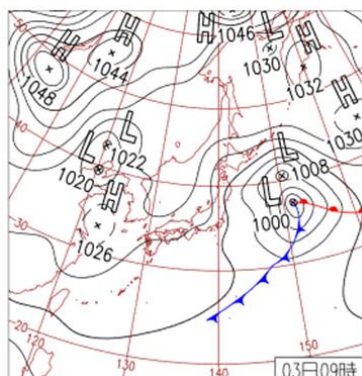
地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

父島では、年平均気温 23.4°C、月平均気温が最も低い 2 月でも 18.1°C と温暖。気温の年較差(1 年間で月平均の最高気温と最低気温の差)は、1 年を通して 5°C 程度と差が小さい。気温を見る限りではちょうど東京の 5 月～10 月頃の季節に相当する。相対湿度は、冬は低く夏は高い傾向であるが、年間を通して高く、夏の父島の平均湿度は 80% を超え、むしむしとした暑い日が続く。年降水量(平年値)は父島で 1,296.1mm であり、特に 4 月～6 月、8 月～11 月に降水量が多い。

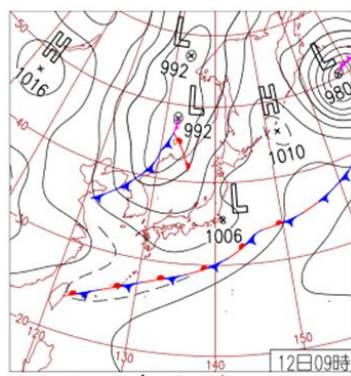
春の天気

前線の活動は極めて活発になり、3 月中に現れる前線は寒冷前線が主であるが、4～5 月には大陸の高気圧の勢力が弱まり、移動性となって高気圧と低気圧が交互に現れ、それに伴う温暖前線や、太平洋高気圧との間には、停滞前線が出現して天気に大きく影響する。また、日降水 10mm を超える日数が急に増える。また、4 月以降(～6 月)は諸島の北側に前線が停滞し、南や南西から下層暖湿気が入ると移流霧が発生しやすくなる(予報則参照)。

風については、日平均風速は 3m/s 前後で弱く、風向は 3 月～4 月は南と北風の出現がほぼ同率で、5 月には南風が卓越するようになる。



ある年の3月3日の天気図



ある年の5月12日の天気図

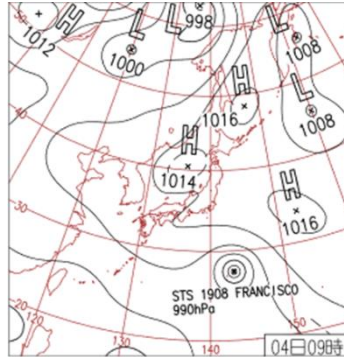
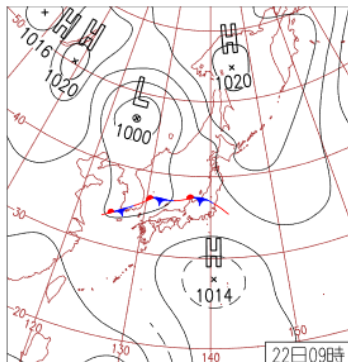


3月～5月の風配図

夏の天気

小笠原諸島は太平洋高気圧に覆われて安定した天気が続き、風が弱く晴天が多い。反面、マリアナ諸島に発生する台風の影響を直接受けるようになり、台風の進路によっては暴風雨に見舞われる。

風については、6月は南風が卓越するが、7～8月は南東、北西が多くなる。日最大風速は朝から昼までに現れることが多い。

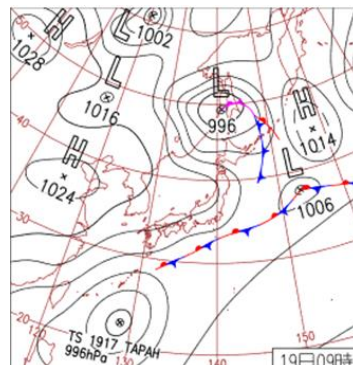
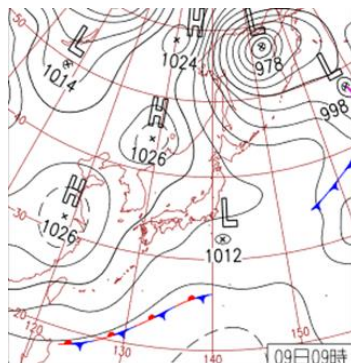


ある年の8月22日の天気図 2019年8月4日台風第8号接近 6月～8月の風配図

秋の天気

季節の始めは、まだ夏の天気がよく現れるが、11月には冬型に移行する。前線帯は、9月は八丈島付近に停滞するが、その後次第に南下し11月には小笠原諸島に達する。高気圧に覆われる日が多く現れるが、11月下旬には西高東低の冬型気圧配置が出現する。高気圧圏内は、晴れや時々曇りとなるが、時には0～3ミリ程度の雨を伴う。季節が進むにつれて寒冷前線が多くなり、前線の活動も活発化する。降水時間は季節の中頃から多くなり、雨量は5～30ミリに増える。11月になると低気圧が解析される頻度が増加し、5～10ミリ程度の雨をもたらす。

風については、9月は東よりの風が多いが、10月には南風と北風がほぼ同程度となり、11月になると北東よりの風向が卓越する。

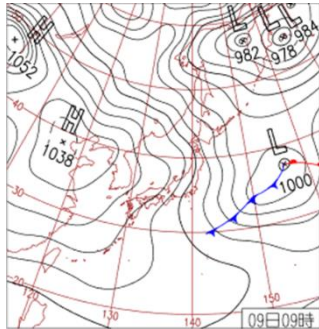


ある年の9月19日の天気図 ある年の11月9日の天気図 9月～11月の風配図

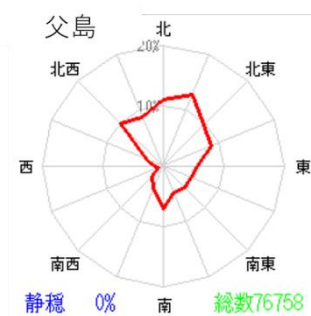
冬の天気

高気圧型と西高東低がほぼ同程度出現する。大陸の高気圧が日本南海上に張り出し、特に父島付近で西高東低型になるとにわか雨が降る。前線の接近通過は寒冷前線であることが多く、雨量は 0～5 ミリ程度である。また、低気圧の発現は少なく、発達程度や進路によって異なるが、この場合の天気は雨で、雨量は 5 ミリ程度である。

風については、12 月と 1 月には北ないし北西風が卓越するが、2 月になると南風が多くなる。静穏日数は年間を通して、最も少ない。



ある年の 1 月 9 日の天気図



12 月～2 月の風配図

1.4. 予報則

気象庁にて過去に調査研究した結果を、1 ページの概要版としてまとめました。

タイトル	要素	季節
E-S シアー型不安定降水（警報級の不安定性降水）	雨	（春）、夏、（秋）
台風周辺の暖湿流による大雨	雨	夏、秋
沿岸前線による大雨	雨	春、夏、秋、冬
伊豆諸島の島曇り	天気	夏
南岸低気圧による降雪	雪	冬
大島の霜注意報（シアーライン北側での大島の北東風の強弱の判断と最低気温の目安）	霜	冬

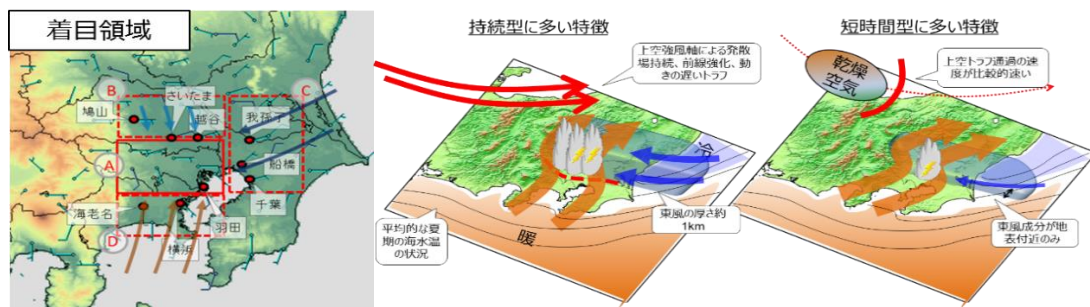
E-S シアー

E-S シアー型不安定降水（警報級の不安定性降水）

概要・発生条件

E-S シアー型不安定降水とは、茨城県側から流れ込む東風と、神奈川県側から流れ込む南風の収束により発生する不安定降水で、スケールの小さな地上風の収束ながら警報級の大雨をもたらす。東京地方では、“不安定な成層状態”、“弱い中下層風”、“特徴的な地上風のパターン”が揃ったときに警報級の大雨が発生しやすい。

概念図

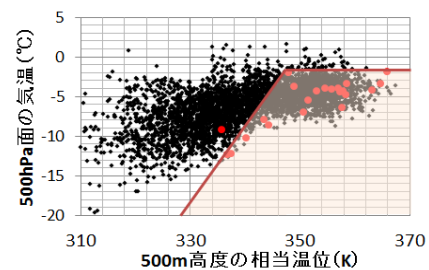


地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

着目点（抜粋）

東京地方における警報級不安定降水発生 の 7 条件（東京 7 条件）：

<領域 A> ①500m 高度の相当温位と 500hPa 面気温が右図の関係を満たすこと。②DLFC $\leq$ 700m。③EL $\geq$ 4km。④CAPE $\geq$ 500J/kg。⑤700hPa 面の湿度 $\geq$ 65%
<領域 B~D> ⑥中下層パターン 1km 高度で風速 10m/s 未満かつ 3km 高度で風速 15m/s 未満。⑦地上風のパターン D 領域 120° ~240° かつ C 領域 30° ~150° ならば E-S 型。D 領域 120° ~240° かつ B 領域 315° ~80° ならば N-S 型。



警報級の可能性「中」付加の検討基準：「東京 7 条件すべて揃っている、または、条件①～⑥が揃っている（条件⑦だけ×）+MEPS で地上風シアーパターンの形成される確率が 30% 以上」が 2 初期値以上

注意報発表基準：東京 7 条件○かつ LFM で 2 初期値以上で R1 $\geq$ 50mm+実況（成層状態→館野エマグラム、WPR+地上風シアーライン（E-S または N-S シアー））

警報発表基準：広範囲・局地的パターンの特徴を実況で確認 + 不安定&シアーライン上にエコー発生

7 条件以外で発生しやすいパターン：上空トラフ+地上風 E 風卓越、UCL+局地的シアーライン（N-E 等）では、地上風で南風が入っていても警報級の大雨となる場合あり。

※略語については、量的予報技術資料（予報技術研修テキスト）第 21 巻第 2 章参照

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/yohkens/21/chapter2.pdf>)

※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1 ページの概要版としてまとめたものです。

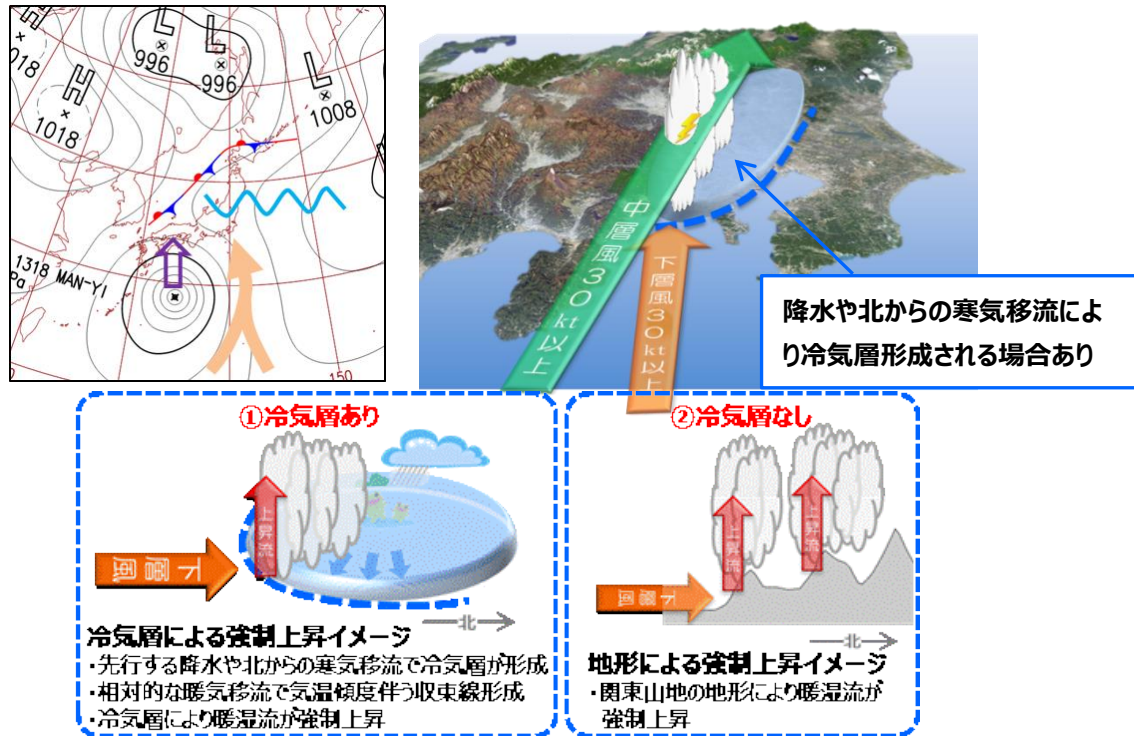
台風周辺の暖湿流による大雨

台風周辺の暖湿流による大雨

概要

太平洋高気圧が東日本へ張り出す中、台風が日本の南を北上。台風が 30N を超えた頃から、台風・高気圧縁辺の強い下層暖湿気が関東に流入、地形や冷氣層縁で上昇し大雨をもたらす。

概念図



地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

着目点（抜粋） 東京地方の降水 50～60m/h を想定

- ・ 大気下層に強い暖湿気移流
⇒500m 高度相当温位 $\geq 355K$ & 下層風(約 1000m 以下)風 $\geq SE \sim S$ 30kt
⇒大雨をもたらす対流の活発な領域は 850hPa 相当温位 $\geq 345K$ が目安
- ・ 冷氣層の形成 あり ⇒強雨域は冷氣層縁の収束線付近 ⇒東京地方全域で強雨可能性
なし ⇒山地などの地形 ⇒強雨域は多摩西部中心
- ・ 強い下層暖湿気移流により大気の状態が不安定。上空寒気があればより不安定化
- ・ 積乱雲が同じ場所で繰り返し発生し組織化
中層 (700hPa) 30kt 以上の S 風により積乱雲が同じ地域を繰り返し通過
- ・ 終焉は 下層風向が $SE \sim S \rightarrow SSW \sim SW$ に変化、水蒸気量の減少

※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1 ページの概要版としてまとめたものです。

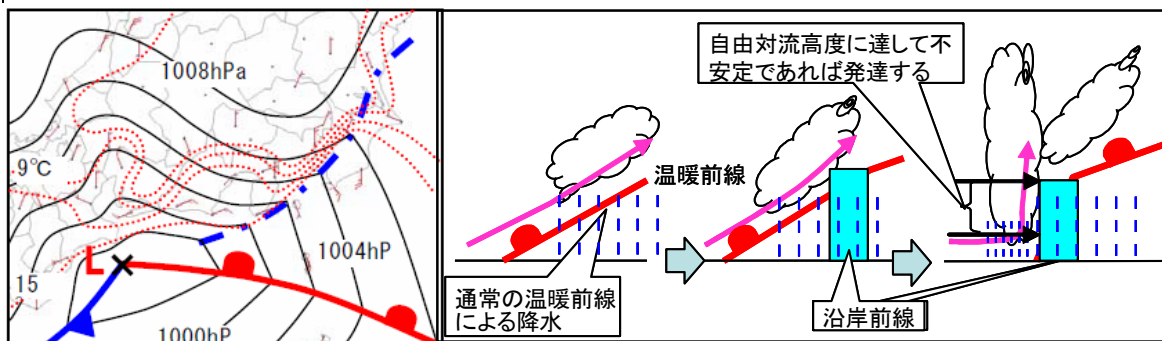
沿岸前線による大雨

沿岸前線による大雨

概要

沿岸前線とは、海から吹きつける相対的な暖気と陸上の冷氣塊との間に形成される風のシアーと温度傾度を持った局地前線のこと。沿岸前線が発生すると沿岸前線近傍では短時間強雨が発生する知見がある。

概念図



局地天気図における沿岸前線（青点線）

温暖前線が接近してきた時の沿岸前線による大雨の概念

着眼点（抜粋）

（現象の概ね 24～6 時間前）

① 沿岸前線による大雨に対する予報作業開始の判断

「本州付近を気圧の谷が通過」「関東南岸に沿岸前線が形成」の 2 点が予想される場合

② 雨量レベルを見積もる

勝浦付近の風が S～ESE である場合、雨量判定図から雨量レベルを見積もる（館野付近の 850hPa 相当温位と勝浦付近の 925hPa 風速を用いた R1 レベル判定図）。S～ESE 以外の風向が予想される場合は、ガイダンス等を用いて従来の作業手順で予想値を決定する。

（現象の概ね 3 時間前～現象発生ステージ）

以下の実況監視項目を警報・注意報発表判断の目安とする。

- ・沿岸前線が東京地方に位置する
- ・沿岸前線上空の風について、勝浦 WPR0.8km で暖気移流の強まりを確認
- ・周辺の降水状況について、静岡県東部・伊豆や、神奈川県または相模湾で強雨域の出現

（警報解除のステージ）

以下を確認し警報を解除する。

- ・組織化したエコーが東京地方から千葉県に移動
- ・三宅島（アメダス）、勝浦（WPR0.8km 面）の風向が SSW～SW に変化

※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1 ページの概要版としてまとめたものです。

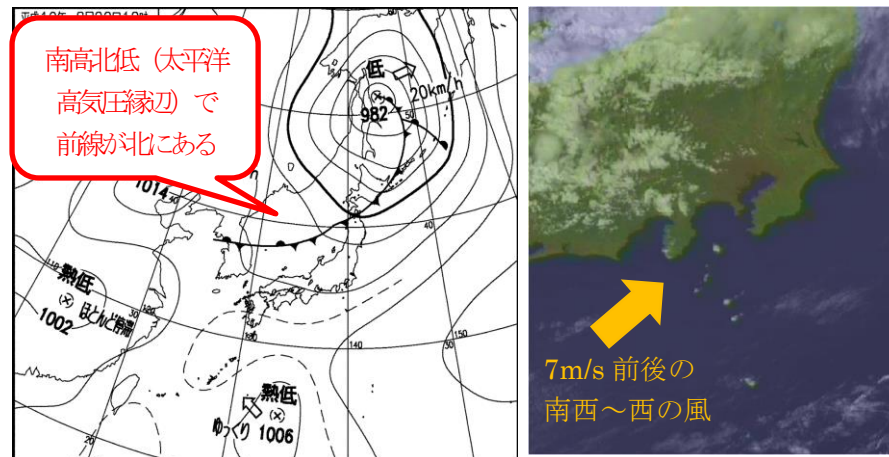
伊豆諸島の島曇り

伊豆諸島の島曇り

概要・発生条件

島曇りとは、島の周辺は晴れているが島の上だけ雲がかかっている現象で、伊豆諸島では梅雨時の6月～8月によく現れる。湿度が高い中、島の内陸では低い雲がたれ込み、海岸に行けば晴れているといった、天気予報での表現が非常に難しい現象である。

概念図



着目点 (抜粋)

- ・発生しやすい時期；梅雨時の6月から8月
 - ・気圧配置；南高北低（太平洋高気圧縁辺、前線が伊豆諸島の北）
 - ・風向；南西から西
 - ・風速；7メートル前後（5から8メートル）
 - ・気温と露点温度の差が2℃以下
 - ・15時の気温と露点温度の差が5℃以下
 - ・露点温度と海面水温の差が5℃前後
 - ・明け方の最低気温が海面水温よりも高い
- ※風・気温・露点温度は地上におけるもの

※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1ページの概要版としてまとめたものです。

雪（東京地方）

南岸低気圧による降雪

概要・発生条件

雪になるためには、下層気温が雪が融けないような鉛直分布をしていることがポイント。地上気温により雪水比が変化するが、積雪となるためには 1°C 以下の地上気温と $2\sim 3\text{mm/h}$ の降水が必要。実況監視には、滞留寒気及び北東から流れ込む下層寒気の監視が有効。

概念図



着目点（抜粋）

・雪となる時の下層気温

関東南部の雪想定を目安気温は 850hPa で -4°C 、 950hPa で $0\sim -1^{\circ}\text{C}$ 、 975hPa で 0°C 。

・積雪となる地上気温と降水量

地上気温 1°C 以下で 1 時間に $2\sim 3\text{mm}$ 以上の降水がある場合（降水量が少ないと気温が低くても積雪は増えない）。

・地上気温と雪水比

0°C 未満で 0.9、 0°C 以上 0.5°C 未満で 0.8、 0.5°C 以上 1°C 未満で 0.4、 1°C 以上 1.5°C 未満で 0.1。 1.5°C 以上では、降雪の可能性はあるが積雪は増えない。

・南岸低気圧による大雪の実況監視の着目点

[滞留寒気の監視]

形成前は中下層の乾燥域と地上の相対湿度に注目して大気冷却の環境場を確認。形成期から形成完了は地上気温 1°C 線の動向。内陸部の局地高気圧形成。関東西部山沿いからの北西～北風の顕在化（積雪時は北～北北西風となる）を確認。

[北東から流れ込む下層寒気の監視]

茨城～千葉北西部の北東風の領域で気温低下と雪への変化。WPR 水戸で下層に受信強度の大きい層の出現を確認。

※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1 ページの概要版としてまとめたものです。

大島の霜注意報（シアーライン北側での大島の北東風の強弱の判断と最低気温の目安）

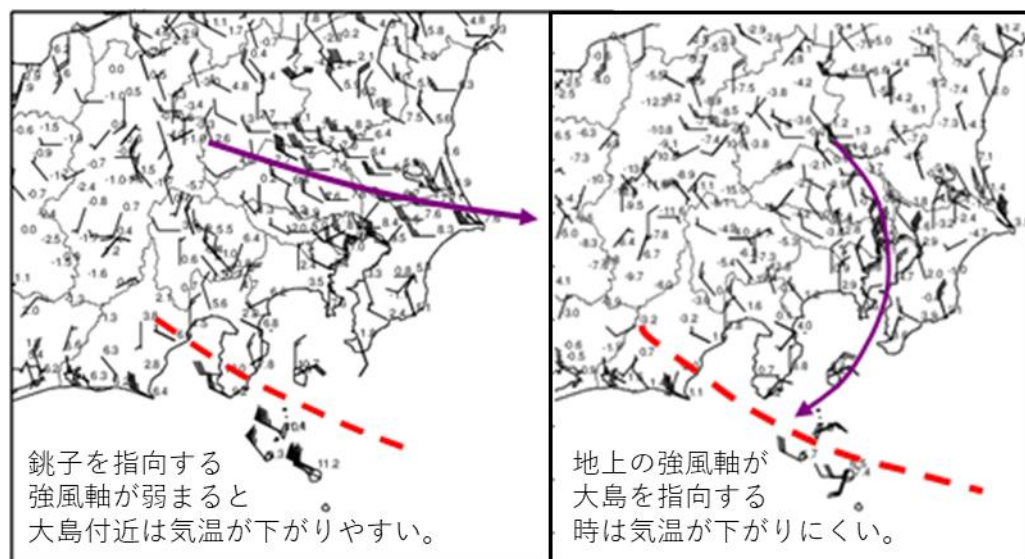
大島の霜注意報（シアーライン北側での大島の北東風の強弱の判断と最低気温の目安）

概要

大島で霜が発生するのは、伊豆諸島に形成されるシアーラインの北側となり、風が弱く、晴れて湿度が高い場合である。

過去の調査では、伊豆諸島北部では、最低気温が $1\sim 3^{\circ}\text{C}$ でも「風向が西南西～西」または「北東～東北東の風が 4m/s 以上」の場合は霜が降りづらいことがわかっており、霜注意報の発表は風の予想も考慮して判断している。シアーライン北側での北東風の強弱と、風が弱い場合に $950\text{hPa} \cdot 925\text{hPa}$ の気温から最低気温を推定する目安を示す。

概念図



（赤点線がシアー、紫の矢印が強風の軸を示す）

着目点（抜粋）

- ・大島の南にシアーラインがあり、地上の強風の軸が埼玉県の一部から東京 23 区を通過して、三浦半島から大島を指向しているときは、大島で北東の風速が落ちない（概念部右）。
- ・大島の南にシアーラインがあり、地上の強風の軸が埼玉県から銚子を指向しているとき、一部が東京湾から三浦半島を経て大島に流入している間は、大島の風は 3m/s 以下になりにくい。埼玉県から銚子を指向する強風が弱まると、相模湾から大島付近は風がよどんで弱風域となり、気温が下降する（概念図左）。
- ・ $950\text{hPa} \cdot 925\text{hPa}$ の気温が夜間に 0°C 以下にならないと、地上気温は 3°C 以下にならない。
- ・大島で風が弱まる時には、地上の最低気温が 925hPa 予想気温（夜間の最低）くらいまで下降する傾向がある。

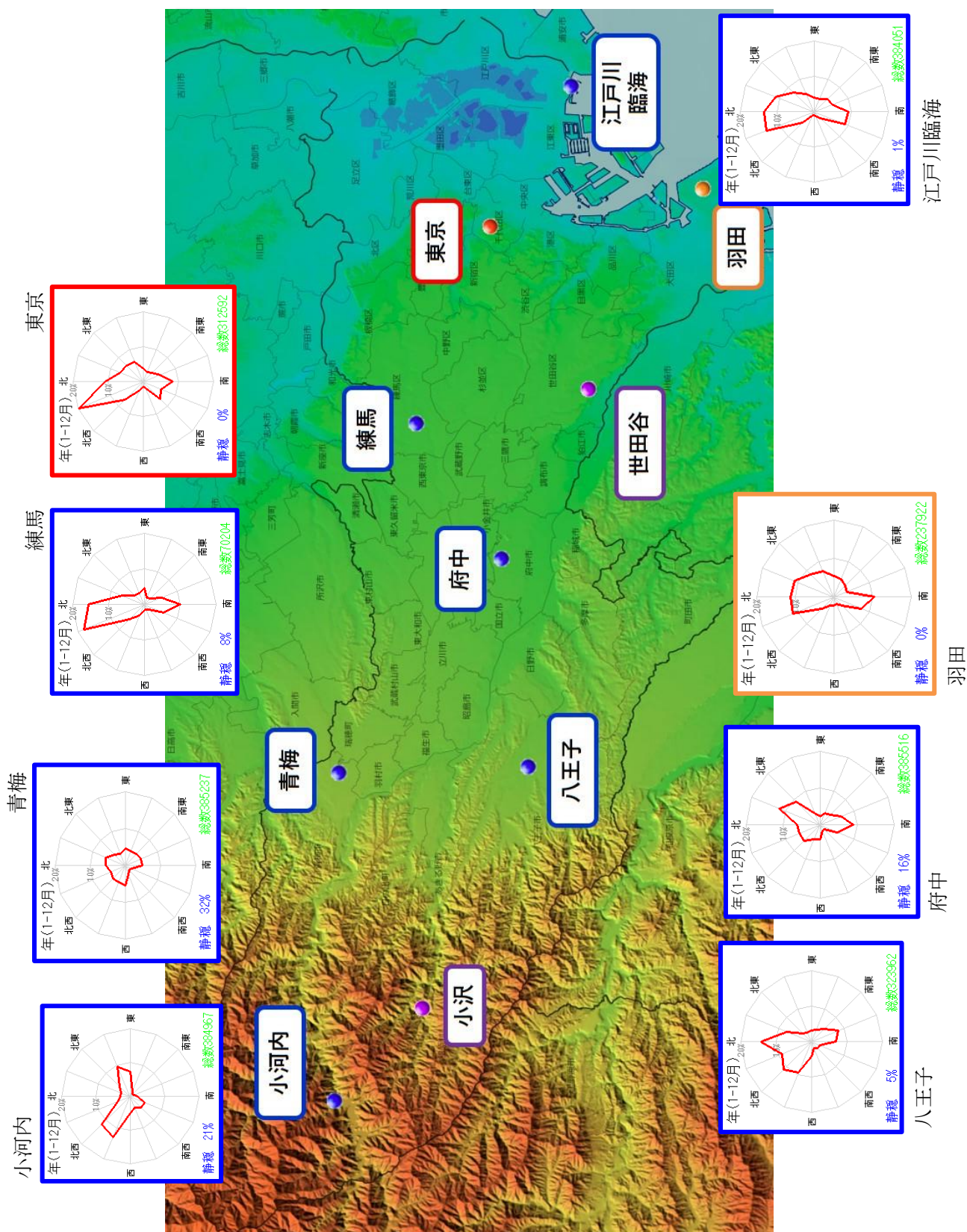
※この予報則は、過去、調査研究された結果を、1 ページの概要版としてまとめたものです。

東京都の「一次細分区域」「市町村等をまとめた地域」「市区町村（二次細分区域）」を以下に示す。

一次細分区域	市町村等をまとめた地域	市区町村（二次細分区域）
とうきょうちほう 東京地方	23くせいぶ 23区西部	きたく ぶんきょうく ちよだく ちゅうおうく みなとく しながわく 北区、文京区、千代田区、中央区、港区、品川区、 おおたく めぐろく しぶやく しんじゅくく としまく いたばしく 大田区、目黒区、渋谷区、新宿区、豊島区、板橋区、 ねりまく なかのく すぎなみく せたがやく 練馬区、中野区、杉並区、世田谷区
	23くとうぶ 23区東部	かつしかく えどがわく こうとうく すみだく あだちく あらかわく たいとうく 葛飾区、江戸川区、江東区、墨田区、足立区、荒川区、台東区
	たまほくぶ 多摩北部	にしとうきょうし むさしのし みたかし ちょうふし こまえし ふちゅうし こがねいし 西東京市、武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、府中市、小金井市、 こだいらし ひがしくるめし きよせし ひがしむらやまし 小平市、東久留米市、清瀬市、東村山市、 ひがしやまし こくぶんじし くにたちし たちかわし むさしむらやまし 東大和市、国分寺市、国立市、立川市、武蔵村山市、 あきしまし 昭島市
	たませいぶ 多摩西部	みずほまち ふつさし はむらし おうめし のし 瑞穂町、福生市、羽村市、青梅市、あきる野市、 ひのでまち ひのほらむら おくたままち 日の出町、檜原村、奥多摩町
	たまなんぶ 多摩南部	はちおうじし まちだし ひのし たまし いなぎし 八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市
いずしょうほくぶ 伊豆諸島北部	おおしま 大島	おおしままち 大島町
	にいじま 新島	にいじまむら としまむら こうづしまむら 新島村、利島村、神津島村
いずしょうなんぶ 伊豆諸島南部	はちじょうじま 八丈島	はちじょうまち あおがしまむら 八丈町、青ヶ島村
	みやけじま 三宅島	みやけむら みくらじまむら 三宅村、御蔵島村
おがさわらしょう 小笠原諸島	おがさわらしょう 小笠原諸島	おがさわらむら 小笠原村

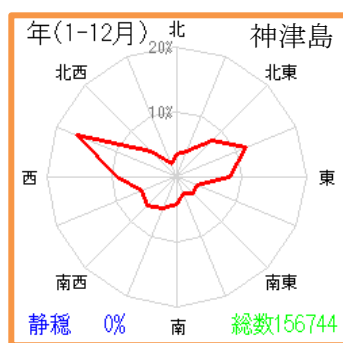
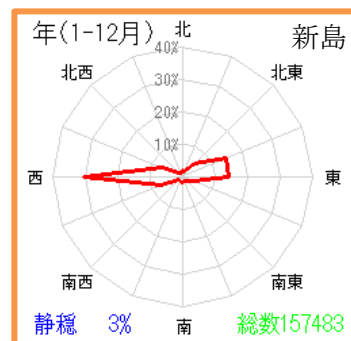
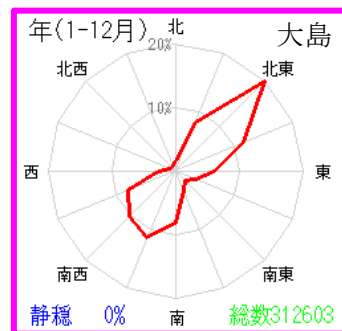
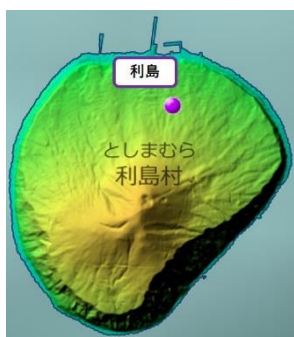
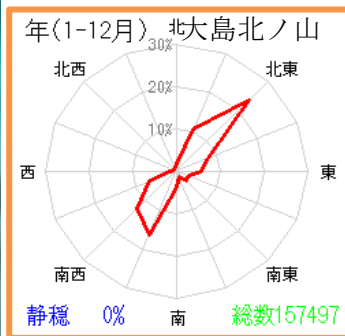
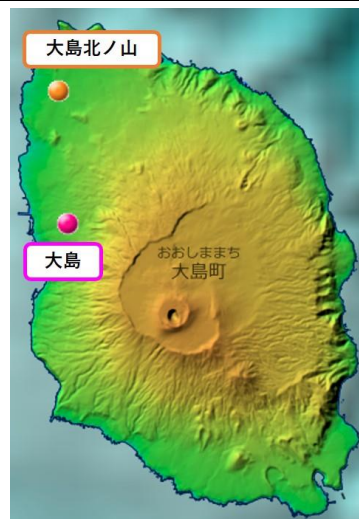
2.2. アメダス配置図と風配図

東京地方



地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

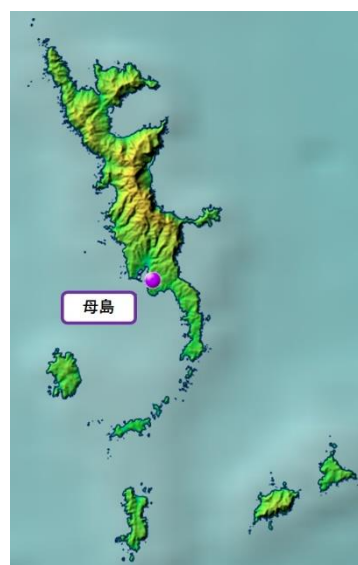
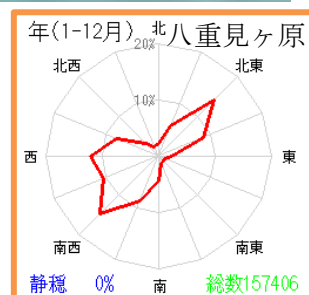
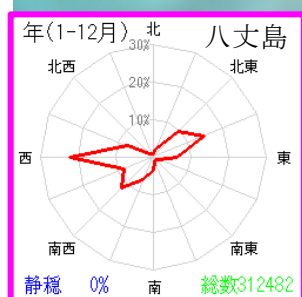
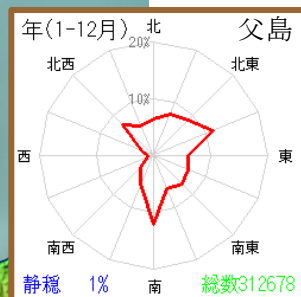
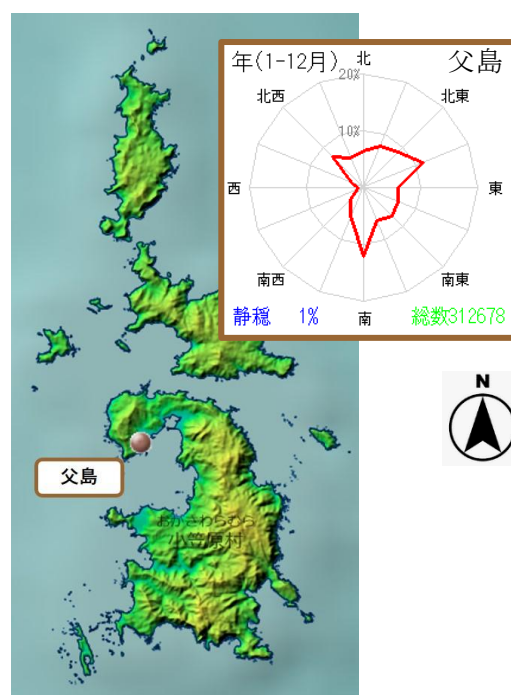
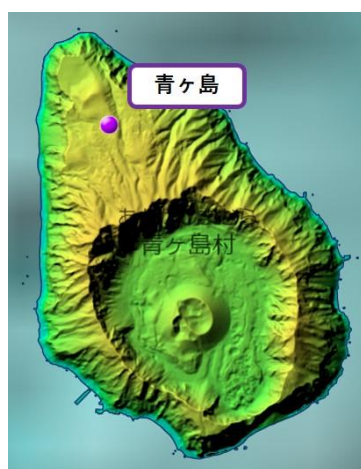
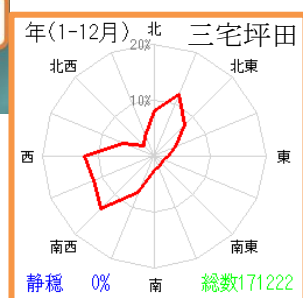
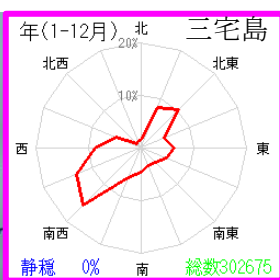
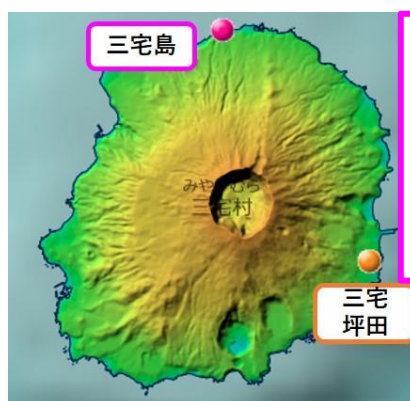
伊豆諸島北部



※縮尺比注意

地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.nnm>

伊豆諸島南部・小笠原諸島



※縮尺比注意

地図出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

- 気象台（気温・降水量・風向風速・日照時間・積雪深・湿度・気圧）
- 特別地域気象観測所（気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・気圧）
- 地域気象観測所（降水量）
- 地域気象観測所（気温・降水量・風向風速）
- 地域気象観測所（気温・降水量・風向風速・日照時間）
- 父島地域気象観測所（気温・降水量・風向風速・日照時間・湿度・気圧）

観測所一覧

2023 年 8 月 24 日現在

観測所名	かかけ名	観測項目							所在地	緯度 (度)	緯度 (分)	経度 (度)	経度 (分)	海面 上の 高さ (m)	風速 計の 高さ (m)	温度 計の 高さ (m)	観測開始年月日
		降 水 量	気 温	湿 度	風	日 照 時 間	積 雪	そ の 他									
小河内	オホガハチ	○	○	○	○	○			西多摩郡奥多摩町原	35	47.5	139	3	530	9.9	1.5	#昭51.12.15
小沢	オサワ	○							西多摩郡檜原村	35	44.1	139	7.4	420	—	—	昭52.8.2
青梅	オメ	○	○		○	○			青梅市新町	35	47.3	139	18.7	155	10	1.5	(昭50.5.16)昭51.12.14
練馬	ネリマ	○	○		○	○			練馬区石神井台	35	44.3	139	35.5	51	11.3	1.5	平24.12.26
八王子	ハチオウジ	○	○		○	○			八王子市元本郷町	35	40	139	19	123	49.8	1.5	昭58.9.30
府中	フチュウ	○	○		○	○			府中市幸町	35	41	139	29	59	9.3	1.5	昭51.12.14
世田谷	セタガヤ	○							世田谷区岡本	35	37.6	139	37.2	35	—	—	#
東京	トウキョウ	○	○	○			○	○	千代田区北の丸公園 東京管区気象台	35	41.5	139	45	25	—	—	平19.11.1
					○	○			千代田区北の丸公園	35	41.5	139	45.1	20	35.3	—	平19.11.1
江戸川臨海	エドガワリンカイ	○	○		○	○			江戸川区臨海町	35	38.3	139	51.8	5	10.2	1.5	#昭51.12.13
羽田	ハネダ	○	○		○				大田区羽田空港 東京航空地方気象台	35	33.2	139	46.8	6	10	—	#平5.10.12
大島	オシマ	○	○	○	○	○		○	大島町元町字家の上 大島特別地域気象観測所	34	44.9	139	21.7	74	27.1	—	平3.12.18
大島北ノ山	オシマキタノヤマ	○	○		○				大島町元町字北の山 大島航空気象観測所	34	46.9	139	21.6	38	9	—	平15.1.1
利島	トシマ	○							利島村	34	31.7	139	16.9	100	—	—	平26.7.25
新島	ニジマ	○	○		○				新島村川原 新島航空気象観測所	34	22.1	139	16.1	29	10	—	平15.1.1
神津島	コクヅシマ	○	○		○				神津島村金長 神津島航空気象観測所	34	11.3	139	8	138	10	—	平15.1.1
三宅島	ミヤケジマ	○	○	○	○	○		○	三宅村神楽 三宅島特別地域気象観測所	34	7.4	139	31.2	38	13.2	—	#昭50.12.10
三宅坪田	ミヤケツチタ	○	○		○				三宅村坪田 三宅島航空気象観測所	34	4.4	139	33.6	20	6.5	—	平12.9.11
八重見ヶ原	ヤエミガハラ	○	○		○				八丈島八丈町大賀郷 八丈島航空気象観測所	33	6.9	139	47.1	92	10.3	—	平15.1.1
八丈島	ハチジ ヨウジマ	○	○	○				○	八丈島八丈町大賀郷 八丈島特別地域気象観測所	33	7.3	139	46.7	151	—	—	昭50.3.13
					○	○			八丈島八丈町大賀郷	33	6.2	139	47	74	18.1	—	昭50.3.13
青ヶ島	アオガシマ	○							青ヶ島村	32	28	139	45.6	272	—	—	平26.7.31
父島	フジマ	○	○	○	○	○		○	小笠原村父島字西町 父島気象観測所	27	5.5	142	11.4	3	15.8	—	昭61.3.18
母島	ハハジマ	○							小笠原村母島字評議平	26	38.1	142	9.7	32	—	—	平19.8.29
南島島	ミナミトシマ	○	○	○	○	○		○	小笠原村南島島 南島島気象観測所	24	17.3	153	59	7	15.8	—	平22.6.1

2.3. 平年値（1991 年～2020 年）からみた特徴

<気温>

東京では、8月上旬頃が最も高く、1月中・下旬頃が最も低い（約 20℃の温度差）。八丈島では、8月中旬頃が最も高く、1月下旬頃が最も低い（約 17℃の温度差）。父島では8月上・中旬頃が最も高く、2月上旬頃が最も低い（約 10℃の温度差）。いずれも8月が最も高く、1～2月にかけて最も低くなっており、亜熱帯に位置する父島では温度差が小さい。

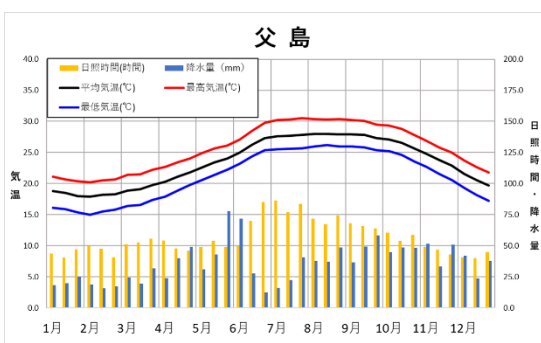
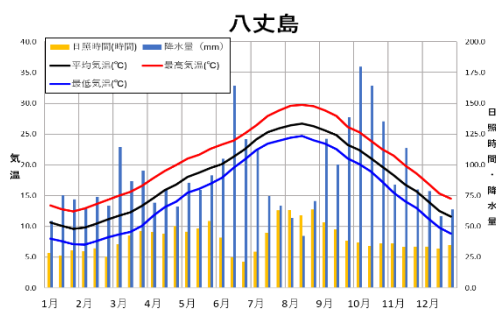
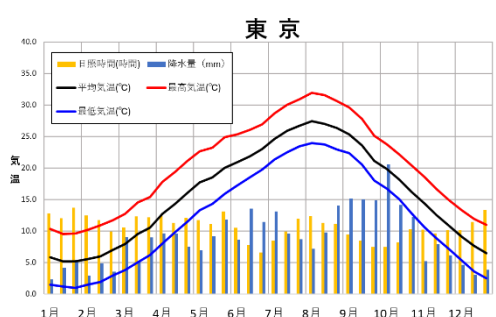
東京の年平均気温は 15.8℃で札幌（9.2℃）に比べ 6.6℃高く、那覇（23.3℃）に比べ 7.5℃低くなっている。父島は 23.4℃で那覇と 0.1℃の差となっている。東京では、夏期の最高気温は那覇と同じく 30℃を超える。最高気温 30℃以上の日数は年間 52.1 日あり、那覇の 102.5 日に比べ約半分だが、35℃以上の日数は年間 4.8 日に比べ那覇では 0.2 日と暑い日が多くなっている。

<降水量>

梅雨時期や秋雨・台風の時期を中心に多い。年降水量は、東京では 1598.2mm であり、札幌（1146.1mm）に比べ多いが、金沢（2401.5mm）や那覇（2161.0mm）に比べて少ない。また、八丈島（3306.6mm）に比べても少ない。父島では 1296.1mm と東京と大きくは変わらない。冬期間では、冬型の気圧配置となることが多く、東京では年間で最も少ない時期となる。

<日照時間>

東京では合計 160 時間を越える月が多く、梅雨時期と秋雨・台風の時期には少なくなる。また、年間日照時間は 1926.7 時間で、札幌（1718.0 時間）、金沢（1714.1 時間）、八丈島（1445.0 時間）より多く、南にある那覇（1727.1 時間）に比べても多い。父島は 2030.6 時間で 6～8 月が合計 200 時間を超えている。



<参考文献>

- ・東京都地域防災計画（風水害編）

2.4. 主な災害記録

1990 年から 2023 年までの主な気象災害を示す。

2023 年（令和 5 年）

突風	
期間	2023 年（令和 5 年）8 月 1 日
概要	8 月 1 日は太平洋高気圧に広く覆われたが、上空の寒気と日中の気温上昇、湿った空気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、活発な積乱雲が発生した。12 時 30 分頃、東京都中野区中野（なかの）と松が丘（まつがおか）で突風が発生し、工事現場の仮設足場の崩落などの被害があった。
観測値	・この突風をもたらした現象は、ダウンバーストまたはガストフロントの可能性が高い。 ・この突風の強さは、風速約 25m/s と推定され、日本版改良藤田スケールで JEF0 に該当する。
災害の状況	○人的被害：なし ○住家被害：なし ○非住家被害：なし ○その他：仮設足場の壁つなぎ材の破断 （令和 5 年 8 月 2 日 09 時 00 分現在）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・報道発表
大雨	
期間	2023 年（令和 5 年）6 月 1 日～6 月 3 日
概要	6 月 1 日から 3 日は本州付近に梅雨前線が停滞し、前線に向かって台風第 2 号からの暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により前線の活動が活発となった。このため、東京地方では 2 日から 3 日にかけて大雨となり、23 区西部の一部に土砂災害警戒情報を、石神井川と目黒川に氾濫危険情報を、多摩川に氾濫注意情報を発表した。
観測値	1 時間降水量は、練馬で 45.0 ミリ、小沢で 44.0 ミリとなり、6 月の極値を更新した。降り始めからの総降水量（1 日 21 時～3 日 16 時）は、練馬で 296.0 ミリ、府中で 259.5 ミリ、青梅で 209.5 ミリなど東京地方の広い範囲で 200 ミリ以上を観測した。
災害の状況	○人的被害：なし ○物的被害： 住家全壊 3 棟、半壊 なし、一部損壊 13 棟 床上浸水 32 棟 床下浸水 23 棟 （令和 5 年 11 月 15 日 13 時 00 分現在 消防庁調べ） ○道路被害 国道 16 号法面崩落（町田市） （令和 5 年 6 月 8 日 7 時 30 分現在 国土交通省情報）
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害時気象報告 ・気象速報

2022 年（令和 4 年）

東京都では顕著な気象災害はありませんでした。

2021 年（令和 3 年）

令和 3 年台風第 16 号	
期間	2021 年（令和 3 年）9 月 30 日～10 月 1 日
概要	9 月 30 日から 10 月 1 日にかけて、伊豆諸島に接近して日本の東へ進んだ台風第 16 号の影響により、伊豆諸島では暴風となったところがあり、海上ではうねりを伴った猛烈なしけとなった。 このため、住家の屋根の飛散や倒木があったほか、航空機・船舶の欠航による交通障害や停電があった。
観測値	<風> 最大風速は三宅島坪田で 29.3 メートル、三宅島神着で 26.3 メートルを観測した。最大瞬間風速は三宅島坪田で 41.7 メートル、八丈島西見で 41.0 メートルを観測した。 三宅島坪田の最大風速と最大瞬間風速は、共に 10 月の観測史上 5 位の値となった。 <雨> 9 月 29 日 00 時から 10 月 1 日 24 時までの総降水量は、大島元町で 264.0 ミリ、三宅島神着で 221.5 ミリとなった。 <波> 伊豆諸島の海上では、9 メートルを超えるうねりを伴った猛烈なしけとなった。
災害の状況	【利島村】 10 月 2 日 08 時 05 分現在 非住家被害 公共建物 1 棟 【新島村】 10 月 1 日 19 時 00 分現在 停電 1,033 戸（全戸復旧済み） 【三宅村】 10 月 4 日 10 時 08 分現在 停電 1,480 戸（全戸復旧済み） 【御蔵島村】 10 月 4 日 14 時 42 分現在 住宅被害 1 棟 非住家被害 公共建物 1 棟 その他 1 棟 その他被害 道路 2 ヶ所 【八丈町】 10 月 5 日 15 時 07 分現在 住家被害 43 棟 その他被害 文教施設 2 ヶ所 道路 38 ヶ所 ブロック塀等 1 ヶ所 （東京都調べ）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報

2020 年（令和 2 年）

令和 2 年台風第 14 号	
期間	2020 年（令和 2 年）10 月 7 日～11 日
概要	10 月 7 日から 11 日にかけて、台風第 14 号や前線の影響により、東京都の伊豆諸島を中心に大雨となった。記録的な大雨により土砂災害の危険度が高まった三宅村と御蔵島村に、大雨特別警報を発表した。また、海上ではうねりを伴った大しけとなった。 このため、伊豆諸島では土砂災害が発生したほか、航空機や船舶の欠航による交通障害があった。
観測値	<風> 最大風速は三宅島神着で 23.6m/s、八丈島西見で 19.7m/s を観測した。 最大瞬間風速は八丈島西見で 30.5m/s、三宅島神着で 30.9m/s を観測した。 <雨> 7 日 00 時から 11 日 09 時までの総降水量は、八丈島では 600 ミリを超え、三宅島では 500 ミリ、大島でも 400 ミリを超える雨となり、10 月の月降水量の平年値より多い値となった。 72 時間降水量が三宅島坪田で 586.5 ミリ、八丈島西見で 519.5 ミリ、三宅島神着で 503.0 ミリ、八丈島八重見ヶ原で 441.0 ミリに達し、統計開始以来の極値を更新した。 また、24 時間降水量では三宅坪田が 429.5 ミリ、48 時間降水量は三宅島で 465.0 ミリ、三宅坪田で 543.5 ミリ、八重見ヶ原で 382.0 ミリ、八丈島で 450.5 ミリと統計開始以来の極値を更新した。 <波> 伊豆諸島の海上では、5 メートルを超えるうねりを伴ったしけとなった。
災害の状況	○人的被害：なし ○物的被害：なし ○その他：三宅島（一部通行止めや土砂崩れ、倒木あり） 八丈島（通行止めあり） （令和 2 年 10 月 11 日 12 時時点）
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・大雨特別警報を発表した事例等における雨量等の予測と実際の状況等について（速報） ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報

2019 年（平成 31・令和元年）

令和元年台風第 19 号	
期間	2019 年（令和元年）10 月 10 日～13 日
概要	10 月 10 日から 13 日にかけて、関東地方を通過した台風第 19 号の影響により、東京都では、猛烈な風の吹いた所があった。また、記録的な大雨により初めての特別警報を発表した。海上では、うねりを伴った猛烈なしけとなった。 このため、大雨等による建物等の被害、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、停電などの交通障害やライフラインへの影響があったほか、土砂災害、浸水害、洪水害があった。

観測値	<風> 最大風速は羽田で 34.8m/s、江戸川臨海で 32.6m/s を観測し、統計開始以来の極値を更新した。 最大瞬間風速は神津島で 44.8m/s、江戸川臨海で 43.8m/s を観測した。 <雨> 10 日 00 時から 13 日 24 時までの総降水量は、解析雨量※（96 時間積算）では、多摩地方を中心に広い範囲で 400 ミリを超え、多摩西部及び多摩南部では 600 ミリを超えた所があった。アメダスでは、西多摩郡奥多摩町小河内で 610.5 ミリ、西多摩郡檜原村小沢で 649.0 ミリ、八王子で 427.0 ミリ、青梅で 404.0 ミリを観測した。 24 時間降水量では、小沢 627.0 ミリ、小河内 580.0 ミリなど、統計開始以来の極値を更新する地点が複数あった。 <波> 伊豆諸島の海上では、10 メートルを超えるうねりを伴った猛烈なしけとなった。また、過去最高潮位を超える高潮となった所があった。
災害の状況	○人的被害：死者なし、軽傷者 1 名 ○物的被害：全壊 1 棟日の出町（1）、半壊なし、一部損壊 264 棟、浸水被害床上 189 棟、床下 121 棟 （令和元年 10 月 14 日 16 時時点）
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ・令和元年台風第 19 号とそれに伴う大雨などの特徴・要因について（速報） ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報

2018 年（平成 30 年）

平成 30 年台風第 24 号	
期間	2018 年（平成 30 年）9 月 29 日～10 月 1 日
概要	9 月 29 日から 10 日 1 日にかけて、台風第 24 号の影響により、東京都では記録的な暴風となった所があった。また、台風の北上に伴い活発となった前線や台風本体の雨雲の影響により大雨となった。このため、強風による人的被害や建物等の被害があったほか、鉄道の運休や航空機の欠航、広域の停電など、交通障害やライフラインへの影響があった。
観測値	<風> 最大風速は三宅坪田で 33.3m/s の猛烈な風を、八王子では統計開始以来の極値を更新する 26.3m/s の非常に強い風を観測した。最大瞬間風速は八王子で統計開始以来の極値を更新する 45.6m/s、三宅島坪田で 42.2m/s を観測した。 <雨> 9 月 29 日 06 時から 10 月 1 日 06 時までの総降水量は、解析雨量（48 時間積算）では、多摩西部で 200 ミリを超えた所があり、アメダスでは小沢で 199.0 ミリを観測した。1 時間降水量は、解析雨量では、西多摩郡奥多摩町付近で約 70 ミリなどの非常に激しい雨を、アメダスでは小沢で 65.5 ミリの非常に激しい雨を観測した。 <波>

	伊豆諸島の海上では6メートルを超える大しけとなった。
災害の状況	○人的被害：軽傷者1名（荒川区） ○物的被害：住家半壊1棟（中野区） （平成30年10月2日14時時点）
資料	○気象庁HP掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ○東京管区HP掲載資料 ・気象速報
大雨	
期間	2018年（平成30年）9月18日
概要	9月18日夕方から夜遅くにかけて、関東甲信地方は大気の状態が不安定となったため、東京都では23区西部を中心に大雨となり、浸水害などの被害が発生した。
観測値	<風> 最大風速は三宅坪田で33.3m/sの猛烈な風を、八王子では統計開始以来の極値を更新する26.3m/sの非常に強い風を観測した。最大瞬間風速は八王子で統計開始以来の極値を更新する45.6m/s、三宅島坪田で42.2m/sを観測した。 <雨> 9月29日06時から10月1日06時までの総降水量は、解析雨量（48時間積算）では、多摩西部で200ミリを超えた所があり、アメダスでは小沢で199.0ミリを観測した。1時間降水量は、解析雨量では、西多摩郡奥多摩町付近で約70ミリなどの非常に激しい雨を、アメダスでは小沢で65.5ミリの非常に激しい雨を観測した。 <波> 伊豆諸島の海上では6メートルを超える大しけとなった。
災害の状況	○人的被害：なし ○物的被害：床上浸水：14棟（北区2棟、板橋区12棟） 床下浸水：14棟（北区4棟、板橋区10棟） （平成30年9月20日10時40分時点）
資料	○東京管区HP掲載資料 ・気象速報
平成30年台風第21号	
期間	2018年（平成30年）9月4日～5日
概要	9月4日から5日にかけて、台風第21号の影響により、各地で強風となったほか、多摩南部を中心に大雨となった。このため、強風による人的被害や建物等の被害などが発生した。
観測値	<風> 八王子の最大風速は南南東の風21.4メートル、最大瞬間風速は南の風31.5メートルを観測した。 <雨> 3日から5日にかけて断続的に雨が降り、3日00時から5日24時までの総降水量は、解析雨量（72時間積算）では多摩南部や伊豆諸島南部で100ミリを超えた所があった。アメダスでは、小沢で74.0ミリを観測した。1時間降水量は、小沢で30.0ミリの激しい雨を観測した。 <波>

	伊豆諸島の海上では、3日から波が次第に高くなり、4日夜は6メートルを超える大しけとなった。
災害の状況	○人的被害：重傷者1名（八王子市） 軽傷者7名（北区1、板橋区2、練馬区1、八王子市3） ○物的被害：住家一部損壊16棟（練馬区）、道路被害11箇所（練馬区） ○その他：停電60件（三宅村） 倒木22件（中央区3、杉並区1、板橋区3、江戸川区1、八王子市7、青梅市5、小金井市2） （平成30年9月6日11時時点）
資料	○気象庁HP掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ○東京管区HP掲載資料 ・気象速報
突風	
期間	2018年（平成30年）8月27日
概要	8月27日19時40分頃、東京都練馬区西大泉（にしおおいずみ）から杉並区浜田山（はまだやま）にかけて突風が発生し、広範囲で多数の倒木（根返り・幹折れ）などの被害があった。
観測値	・この突風をもたらした現象はダウンバーストの可能性が高い。 ・この突風の強さは、風速約30m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF0に該当する。
災害の状況	○人的被害：なし ○住家被害：なし ○非住家被害：なし ○その他：倒木複数 （平成30年8月29日08時00分現在）
資料	○東京管区HP掲載資料 ・気象速報
大雨	
期間	2018年（平成30年）8月27日
概要	8月27日の昼過ぎから夜遅くにかけて、関東地方では大気の状態が非常に不安定となった。このため、東京都では大雨や落雷により、浸水害や停電などの被害が発生し、練馬区から杉並区にかけては突風により倒木の被害があった。
観測値	<雨> 東京都では27日昼過ぎから積乱雲が発達し、夜遅くにかけて断続的に雷雨となり、解析雨量では、世田谷区付近で約110ミリの猛烈な雨を解析した。アメダスでは、練馬で74.0ミリの非常に激しい雨を観測した。 <突風> 活発な積乱雲が通過した練馬区から杉並区にかけては、突風が発生し倒木の被害があった。突風が発生した地点近傍のアメダス練馬では、最大瞬間風速25.1メートル（27日19時49分）を観測した。
災害の状況	○人的被害：なし ○物的被害： 床上浸水：23棟（大田区2棟、世田谷区14棟、杉並区6棟、西東京市1棟）

	床下浸水：35 棟（大田区 3 棟、世田谷区 6 棟、中野区 2 棟、杉並区 24 棟） （平成 30 年 8 月 31 日 16 時時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
突風	
期間	2018 年（平成 30 年）8 月 6 日
概要	8 月 6 日 17 時 00 分に、東京都八王子市清川町（きよかわちょう）から檜原町（ならはらまち）で突風が発生し、街路樹の枝が折れる被害があった。また、同日 17 時 05 分には東京都八王子市本郷町（ほんごうちょう）から中野上町（なかのかみちょう）で突風が発生し、住家の棟瓦の飛散や店舗の屋根の一部損壊などの被害があった。
観測値	（八王子市清川町から檜原町） ・この突風をもたらした現象はダウンバーストまたはガストフロントの可能性のあるものの特定に至らなかった。 ・この突風の強さは、アメダス八王子の観測値から風速 25.8m/s、日本版改良藤田スケールで JEF0 に該当する。 （八王子市本郷町から中野上町） ・この突風をもたらした現象はダウンバーストの可能性が高いと判断した。 ・この突風の強さは、アメダス八王子の観測から風速 31.0m/s、日本版改良藤田スケールで JEF0 に該当する。
災害の実況	○人的被害：なし ○住家被害：なし ○非住家被害：なし ○その他：倒木 3 件 （平成 30 年 8 月 9 日 8 時 30 分現在）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
平成 30 年台風第 12 号	
期間	2018 年（平成 30 年）7 月 27 日～29 日
概要	7 月 27 日から 29 日にかけて、台風第 12 号の影響により、伊豆諸島では暴風や大しけとなったほか、伊豆諸島や多摩西部では大雨となった。このため、強風による人的被害や建物の被害が発生した。
観測値	<風> 最大風速は三宅島で 30.5 メートルの猛烈な風を観測し、7 月としての極値を更新した。最大瞬間風速は、三宅島で 39.0 メートルを観測した。 <雨> 27 日から 29 日にかけて伊豆諸島や多摩西部を中心に断続的に雨が降り、降り始めからの総降水量（27 日 17 時～29 日 17 時）は、小河内で 231.5 ミリを観測した。1 時間降水量では、青ヶ島で 44.0 ミリ、小沢で 32.0 ミリの激しい雨を観測した。 <波> 伊豆諸島の海上では、台風第 12 号の接近に伴い 27 日から波が次第に高くなり、28 日から 29 日にかけて大しけとなった。
災害の実況	○人的被害：強風により車両横転時に負傷 1 名（三宅村）

	○物的被害：住家一部損壊 5 棟（新島村、御蔵島村） （平成 30 年 7 月 29 日 09 時時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
記録的高温	
期間	2018 年（平成 30 年）7 月～8 月
概要	7 月から 8 月にかけて東日本では記録的な高温となった。東日本の夏（6～8 月）の平均気温は、これまで最も高かった 2010 年を超え、1946 年の統計開始以来最も高くなった。記録的な高温により、東日本では 4 月 30 日から 9 月 2 日までの熱中症による搬送者数が昨年同時期の 2 倍を超えた。
観測値	埼玉県熊谷では、7 月 23 日に日最高気温 41.1℃を観測し、2013 年 8 月 12 日に高知県江川崎で観測された 41.0℃を超えて国内の統計開始以来の 1 位を更新した。岐阜県美濃と岐阜県多治見では、ともに日最高気温 40℃以上を 4 回観測し、こちらも 2013 年の高知県江川崎以来となった。また、東京都及び新潟県では統計開始以来初めて 40℃を超えた地点があり、新潟県で 40℃を超えたのは北陸地方としても統計開始以来初めてであった。
災害の状況	○東京都の熱中症による救急搬送状況 ・ 死亡：0 人 ・ 重症：260 人 ・ 中等症：2,720 人 ・ 軽症：4,730 人 （平成 30 年 9 月 3 日現在）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雪	
期間	2018 年（平成 30 年）1 月 22 日～23 日
概要	1 月 22 日から 23 日にかけて、低気圧が本州の南海上を急速に発達しながら東北東に進んだため、東京都では東京地方を中心に広い範囲で大雪となった。この大雪により、東京地方では、鉄道の運休・遅延、航空機や船舶の欠航、高速道路の通行止めなどの交通障害や、積雪による転倒などの人的被害が発生した。
観測値	22 日朝から 23 日未明にかけて東京地方を中心に雪が降り、広い範囲で大雪となった。22 日 10 時から 23 日 01 時までの期間降雪量は、東京で 23 センチを観測した。また、低気圧の接近に伴い、伊豆諸島を中心に強い風の吹いたところがあった。
災害の状況	○人的被害：東京消防庁管内で降雪により転倒したけが人 306 人を搬送 ○道路通行止め（全線または一部区間） ・ 高速道路（東名高速道路、東京外環道、圏央道、関越道） ・ 首都高速（中央環状線、2 号目黒線、3 号渋谷線、5 号池袋線、6 号三郷線、7 号小松川線、9 号深川線、10 号晴海線、八重洲線、湾岸線） ・ 国道（国道 16 号、国道 20 号、国道 411 号） ・ 都道 5 区間 ○公共交通・鉄道、高速バス、路線バス、船舶、航空機に運休・欠航 （平成 30 年 1 月 24 日 8 時 30 分時点）
資料	○気象庁 HP 掲載資料

	・災害をもたらした気象事例 ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
--	---

2017 年（平成 29 年）

平成 29 年台風第 21 号	
期間	2017 年（平成 29 年）10 月 21 日～23 日
概要	10 月 22 日から 23 日にかけて、台風第 21 号や前線の影響により、東京都では広い範囲で大雨となり、暴風になったところがあった。このため、人的被害や浸水害が発生した。
観測値	<風> 最大風速は三宅坪田で 35.5 メートルの猛烈な風を観測し、統計開始以来の極値を更新したほか、神津島で 31.9 メートル、羽田で 24.9 メートルなどを観測した。最大瞬間風速は、三宅坪田で 47.3 メートル、神津島で 46.3 メートルを観測した。 <雨> 東京都では 22 日から雨が強まり、23 日にかけて広い範囲で大雨となった。降り始めからの総降水量（20 日 12 時～23 日 18 時）は、大島で 358.5 ミリなどを観測した。月最大 24 時間降水量では、八王子で 312.0 ミリ、青梅で 244.0 ミリなど、10 月としての極値を更新したところがあった。1 時間降水量では、八王子で 46.5 ミリ、世田谷で 39.0 ミリなどの激しい雨を観測した。 <波> 伊豆諸島の海上では、台風第 21 号の接近に伴い 21 日から波が次第に高くなり、22 日から 23 日にかけて 10 メートルを超える猛烈なしけとなった。
災害の状況	○人的被害：飛来物による負傷 1 名（八丈町） ○物的被害：床上浸水 2 件（日野市、西東京市）、床下浸水複数報告あり ○その他：道路冠水複数報告あり （平成 29 年 10 月 23 日 18 時時点）
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ・災害時自然現象報告書 ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
大雨	
期間	2017 年（平成 29 年）8 月 19 日
概要	8 月 19 日は、関東地方で大気の状態が非常に不安定となった。このため、東京地方では、19 日午後には大雨により浸水害や土砂災害が発生したほか、落雷により負傷者が出る被害があった。
観測値	東京地方では、19 日午後には積乱雲が発達し、夕方から夜遅くにかけて断続的に雷雨となり、非常に激しい雨の降ったところがあった。 解析雨量では、練馬区付近（8 月 19 日 17 時 30 分までの 1 時間）などで約 70 ミリの非常に激しい雨を解析した。アメダスでは、練馬で 50.0 ミリ（8 月 19 日 17 時 18 分までの 1 時間）の非常に激しい雨を観測した。
災害の状況	○人的被害：落雷による負傷 9 名（世田谷区） ○物的被害：

	床上浸水 19 件（目黒区 3 件、大田区 7 件、練馬区 8 件、三鷹市 1 件） 床下浸水 20 件（世田谷区 6 件、練馬区 9 件、三鷹市 5 件） ○その他：がけ崩れ 1 箇所（日野市） （平成 29 年 8 月 21 日 09 時時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨と降ひょう	
期間	2017 年（平成 29 年）7 月 18 日
概要	7 月 18 日の昼過ぎから夕方にかけて、関東地方では大気の状態が非常に不安定となった。このため、東京都では大雨や落雷、降ひょうにより、浸水害や停電などの被害が発生した。
観測値	東京都では 18 日昼過ぎから積乱雲が発達し、夕方にかけて断続的に雷雨となり、非常に激しい雨の降ったところがあった。また、一部でひょうを伴ったほか、豊島区では突風により倒木の被害も発生した。 解析雨量では、小金井市付近で 7 月 18 日 15 時までの 1 時間に約 60 ミリの非常に激しい雨を解析した。アメダスでは、府中で 34.0 ミリ（7 月 18 日 14 時 59 分までの 1 時間）の激しい雨を観測した。
災害の状況	○物的被害： ・ 練馬区（床上浸水：3 件） ・ 北区（床上浸水：3 件） ・ 杉並区（停電：2749 件） ・ 豊島区（床上浸水：1 件、水道管破損、道路冠水、樹木の倒木・傾斜：複数） ・ 立川市（床上浸水：1 件、床下浸水：2 件） ・ 東久留米市（床上浸水：1 件） （平成 29 年 7 月 19 日 14 時 30 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報

2016 年（平成 28 年）

平成 28 年台風第 9 号	
期間	2016 年（平成 28 年）8 月 21 日～22 日
概要	台風第 9 号は 8 月 22 日 06 時には三宅島の南南西約 40 キロを北に進み、22 日 12 時半頃、千葉県館山市付近に上陸した。その後、関東地方から東北地方を北から北北東に進んだ。この影響により東京都では、21 日から 22 日にかけて大雨や暴風となった所があり、浸水害や土砂災害、鉄道の運休などの交通障害があった。
観測値	<風> 最大風速は三宅島神着で 30.4 メートルの猛烈な風を観測したほか、神津島空港で 28.4 メートル、八丈島八重見ヶ原で 27.7 メートル、江戸川区臨海町で 20.2 メートルなど非常に強い風を観測した。新島川原では 19.1 メートルを観測し、8 月としての極値を更新した。最大瞬間風速は、八丈島八重見ヶ原で 50.9 メートルを観測した。 <雨> この台風の接近により、伊豆諸島では 21 日午前中、東京地方では夜遅くから雨が降り大雨となった。1 時間降水量として、青梅市新町で 107.5 ミリ（統計開始以

	来の極値更新)、八丈島西見で 86.0 ミリ (8 月としての極値更新) と猛烈な雨を観測したほか、大島元町で 65.5 ミリ、新島川原で 57.5 ミリ、八王子市元本郷町で 56.0 ミリなど非常に激しい雨を観測した。 <波> 伊豆諸島の海上では、19 日から台風第 10 号の影響により波やうねりが次第に高くなり、台風第 9 号の接近・通過に伴い、22 日には 6 メートルを超える大しけとなった。
災害の状況	○人的被害：軽傷者：武蔵野市 1 名 ○物的被害： ・半壊：台東区 1 棟、板橋区 1 棟 ・一部損壊：中野区 1 棟、練馬区 1 棟檜原村 1 棟 ・床上浸水 29 棟：板橋区、練馬区、町田市、小平市、東村山市、福生市、東大和市、武蔵村山市、多摩市床下浸水 57 棟目黒区、練馬区、府中市、町田市、東村山市、福生市、東大和市、武蔵村山市、多摩市、稲城市 ○その他：鉄道不通 2 箇所、道路被害 12 箇所、がけ崩れ 2 箇所、停電約 1000 戸 (平成 28 年 8 月 24 日 09 時 00 分時点)
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ・災害時自然現象報告書 ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報

2015 年 (平成 27 年)

大雨	
期間	2015 年 (平成 27 年) 11 月 18 日～19 日
概要	11 月 18 日夜遅くから 19 日未明にかけて、低気圧や前線の影響により、伊豆諸島南部では激しい雨となり、一時猛烈な雨が降るなどの大雨となった。
観測値	伊豆諸島南部では雷を伴って非常に激しい雨が降り、一時猛烈な雨の降った所があった。最大 1 時間降水量は八丈島で 19 日 0 時 59 分までの前 1 時間に 91.5 ミリ、八丈島八重見ヶ原では 19 日 1 時 00 分までの前 1 時間に 83.5 ミリを観測し、いずれも 11 月としての極値を更新した。また、最大 24 時間降水量は、八丈島で 19 日 10 時 00 分までの前 24 時間に 241.0 ミリ、八丈島八重見ヶ原では 19 日 8 時 40 分までの前 24 時間に 214.0 ミリを観測し、いずれも 11 月としての極値を更新した。
災害の状況	記載なし
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
平成 27 年台風第 18 号と前線による大雨	
期間	2015 年 (平成 27 年) 9 月 6 日～10 日
概要	台風第 18 号は日本の南を北上し、9 日 10 時過ぎに愛知県知多半島に上陸して北北西に進み、9 日 21 時に日本海中部で温帯低気圧に変わった。この台風の影響と前線の影響で、東京都全域で大雨となり、床上・床下浸水や山がけ崩れが発生した。また、鉄道など交通機関にも影響があった。
観測値	<風>

	台風の北上に伴い、伊豆諸島を中心に次第に風が強まり、20メートル以上の非常に強い風を観測した。最大風速は、神津島村神津島で 22.3m/s、三宅島で 18.2m/s、大島町大島北ノ山で 16.5m/s、三宅村三宅坪田で 15.9m/s、最大瞬間風速は、神津島村神津島で 30.9m/s、八丈町八重見ヶ原で 26.2m/s などを観測した。 <雨> 台風の接近と前線の影響で、6 日から雨が降り出し、8 日には伊豆諸島を中心に非常に激しい雨の降った所があり、9 日は東京地方を中心に激しい雨が降った所があった。 6 日 09 時から 10 日 15 時までの総降水量は、東京で 336.0 ミリ、江戸川区江戸川臨海で 300.5 ミリ、三宅島で 295.5 ミリ、世田谷区世田谷で 257.5 ミリ、練馬区練馬で 256.5 ミリ、檜原村小沢で 253.5 ミリなど、総降水量 200 ミリを超えた所があった。最大 1 時間降水量は、三宅島で 57.0 ミリ、神津島村神津島で 56.5 ミリ、青梅市青梅で 37.0 ミリ、八丈町八重見ヶ原で 35.5 ミリなど 30 ミリを超えた所があった。
災害の状況	○人的被害：軽傷者：三宅村 1 名 ○物的被害：床上浸水：板橋区 2 棟 床下浸水：目黒区 2 棟 非住家浸水：江東区 1 棟、板橋区 3 棟 道路冠水：八王子市 15 箇所、板橋区 4 箇所 がけ崩れ：北区 1 箇所 (平成 27 年 9 月 11 日 12 時 00 分時点)
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ・平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の資料 ・災害時自然現象報告書 ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
平成 27 年台風第 11 号	
期間	2015 年（平成 27 年）7 月 15 日～18 日
概要	大型で強い台風第 11 号は、日本の南を北上後、16 日 23 時頃、高知県室戸市付近に上陸した。その後も台風は北上を続け、17 日 06 時過ぎに岡山県倉敷市付近に上陸後、日本海に達し、進路を北東に変え、18 日 03 時には熱帯低気圧に変わり、日本海中部を北東に進んだ。台風の接近に伴い東京都では、多摩地方を中心に大雨となり、浸水害の発生した地域があった。また、伊豆諸島や小笠原諸島では高波となった。
観測値	<風> 伊豆諸島を中心に風が強まった。最大風速は、三宅島坪田で 19.6m/s、神津島空港で 18.2m/s、江戸川区臨海町で 16.9m/s、最大瞬間風速は、三宅島坪田で 26.7m/s、神津島空港で 26.7m/s、大島北の山で 23.7m/s などを観測した。 <雨> 15 日 00 時から 18 日 24 時までの総降水量は、奥多摩町小河内で 283.0 ミリ、檜原村小沢で 254.5 ミリ、青梅市新町で 224.0 ミリ、八王子市元本郷町で 221.5 ミリなど、多摩地方では 200 ミリを超えた所があった。最大 1 時間降水量は、青梅市新町で 45.5 ミリ、三宅島神着で 41.0 ミリ、檜原村小沢で 38.0 ミリなど、多摩

	地方や伊豆諸島では 30 ミリを超えた所があった。 <波> 台風の接近に伴って 14 日夜から波やうねりが次第に高くなり、16 日夜から 17 日朝にかけて伊豆諸島では 6 メートルを超える大しけとなった。なお、小笠原諸島では、15 日は 6 メートルを超える大しけとなった。
災害の状況	○物的被害：床下浸水 11 棟（昭島市 9 棟、武蔵村山市 2 棟、瑞穂町 1 棟） （平成 27 年 7 月 22 日 10 時 00 分時点）
資料	○気象庁 HP 掲載資料 ・災害をもたらした気象事例 ・災害時自然現象報告書 ○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報
平成 27 年台風第 6 号から変わった低気圧	
期間	2015 年（平成 27 年）5 月 12 日～13 日
概要	台風第 6 号は 5 月 12 日 09 時には奄美大島の西南西を北東に進み、12 日 18 時に四国沖で温帯低気圧に変わった。その後、低気圧が東海道沖から三陸沖に進んだ影響により、東京地方や伊豆諸島では 12 日夜のはじめ頃から 13 日未明にかけ強い雨や強風となった所があった。このため、鉄道の運休や航空機の欠航など交通機関に影響があった。また、日最大風速の 5 月の観測記録を更新した地点があった。
観測値	<風> 伊豆諸島では 12 日夜のはじめ頃から 13 日未明にかけて、東京地方の沿岸では 12 日夜遅くから 13 日未明にかけ強い風が吹いた。特に、夜遅くには最大風速として、東京都大田区羽田で 26.3 メートル、東京都江戸川区臨海町で 25.0 メートル、東京都三宅島坪田で 24.8 メートルなど、非常に強い風を観測し、5 月としての日最大風速の極値を更新した地点があった。最大瞬間風速も東京都江戸川区臨海町、大田区羽田、大島北の山などで 30 メートル以上を観測した。 <雨> 東京地方や伊豆諸島では 12 日夜のはじめ頃から雨となり、夜遅くには 1 時間降水量として、千代田区北の丸公園で 34.5 ミリ、練馬区石神井台で 33.5 ミリなど、23 区西部を中心に激しい雨が降った所があった。
災害の状況	記載なし
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・気象速報

2014 年（平成 26 年）

平成 26 年台風第 18 号	
期間	2014 年（平成 26 年）5 月 12 日～13 日
概要	大型で強い台風第 18 号は、6 日 06 時には尾鷲市の東南東の海上を北東に進み、08 時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸した。その後も勢力を維持したまま関東地方南部を速度を速めながら北東に進み、昼過ぎには関東の東海上に抜け、21 時には日本の東で温帯低気圧に変わった。 台風の接近・通過に伴い、東京地方や伊豆諸島の広い範囲で大雨や暴風となり、鉄道や航空機など交通機関にも大きな影響を及ぼした。

観測値	<風> 6日には伊豆諸島や東京地方の沿岸部で20メートル以上の非常に強い風を観測した。最大風速は三宅坪田（三宅村）で29.5メートル、最大瞬間風速は大島（大島町）で42.6メートルを観測した。 <雨> 10月4日00時から6日24時までの総降水量は、伊豆諸島の三宅島で358.0ミリ、三宅村坪田で344.0ミリ、大島泉津で268.0ミリとなったほか、世田谷で313.0ミリ、府中で267.5ミリなど東京地方でも200ミリを超える大雨となった。 <波> 台風の接近・通過に伴って波やうねりが高くなり、伊豆諸島では猛烈なしけとなった。
災害の状況	台風18号の接近・通過に伴う人的被害・物的被害はなし （平成26年10月9日14時00分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）9 月 10 日
概要	9 月 10 日、夕方から夜のはじめ頃にかけて、東京都では 23 区西部、23 区東部を中心に雷を伴った猛烈な雨が降り大雨となった。この大雨の影響により、23 区東部などでは床上、床下浸水の被害が発生した。
観測値	東京地方では、夕方から夜のはじめ頃にかけて、23 区西部、23 区東部を中心に雷を伴った猛烈な雨が降った。アメダスでは、千代田区大手町で 17 時 16 分までの前 1 時間に 71.5 ミリ（日最大 1 時間降水量、9 月として統計開始以来第 3 位）の非常に激しい雨を観測した。解析雨量では、17 時 30 分までの前 1 時間に台東区付近で約 100 ミリの猛烈な雨を解析した。
災害の状況	○物的被害： ・ 床上浸水 35 件（江戸川区 22 件、葛飾区 9 件、文京区 3 件、武蔵野市 1 件） ・ 床下浸水 39 件（江戸川区 29 件、葛飾区 8 件、江東区 1 件、武蔵野市 1 件） ・ 非住家被害 6 件（江東区 6 件） （平成 26 年 9 月 11 日 16 時 00 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）7 月 24 日
概要	7 月 24 日の夕方から夜のはじめ頃にかけて、東京都では多摩北部、23 区西部を中心に雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となった。この大雨と雷の影響により、多摩北部、23 区西部では床上、床下浸水の被害が発生したほか、東京地方では大規模な停電も発生した。
観測値	東京地方では、夕方から夜遅くにかけて雷雨となり、特に夕方から夜のはじめ頃にかけては、多摩北部、23 区西部を中心に雷を伴った非常に激しい雨が降った。アメダスでは、世田谷区岡本で 19 時 50 分までの前 1 時間に 42.5 ミリ、練馬区石神井台で 19 時 12 分までの前 1 時間に 40.5 ミリの激しい雨を観測した。解析雨量では、19 時までの前 1 時間に練馬区付近と西東京市付近で約 70 ミリ、19 時 30 分までの前 1 時間に杉並区付近で約 70 ミリ、武蔵野市付近で約 60 ミリの非常に

	激しい雨を解析した。
災害の状況	○物的被害： ・ 床上浸水 30 件（杉並区 7 件、武蔵野市 21 件、西東京市 2 件） ・ 床下浸水 26 件（杉並区 4 件、武蔵野市 12 件、西東京市 10 件） （平成 26 年 7 月 25 日 08 時 30 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）7 月 20 日
概要	7 月 20 日の夜のはじめ頃に、東京地方では雷を伴った猛烈な雨が降り大雨となった。この大雨により、大田区では浸水害が発生した。
観測値	東京地方では、昼過ぎから夜遅くにかけて雨が降り、特に夕方から夜のはじめ頃にかけては所々で雷を伴った非常に激しい雨が降った。江戸川区臨海町では、20 日 18 時 05 分までの前 1 時間に 51.5 ミリの非常に激しい雨を観測したほか、千代田区大手町では 20 日 18 時 21 分までの前 1 時間に 40.5 ミリ、大田区羽田では 18 時 47 分までの前 1 時間に 34.5 ミリの激しい雨を観測した。また、解析雨量では、大田区付近で 18 時から 19 時までの 1 時間に約 90 ミリの猛烈な雨を解析した。
災害の状況	○物的被害：床上浸水 38 件（大田区 38 件）、床下浸水 18 件（大田区 18 件） （平成 26 年 7 月 22 日 08 時 30 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）6 月 29 日
概要	6 月 29 日の夕方から夜のはじめ頃にかけて、東京地方では断続的に雷を伴った激しい雨が降り大雨となった。この大雨により、23 区西部、多摩北部では、住家の浸水や道路冠水等の被害が発生した。
観測値	東京地方では、朝までと夕方から夜のはじめ頃にかけて雨が降り、特に夕方は雷を伴い激しい雨の降った所があった。練馬区石神井台では 29 日 16 時 36 分までの前 1 時間に 45.0 ミリの激しい雨を観測した。
災害の状況	○物的被害： ・ 床上浸水 7 件（板橋区 1 件、三鷹市 3 件、品川区 3 件） ・ 床下浸水 17 件（北区 3 件、板橋区 1 件、三鷹市 6 件、東大和市 5 件、品川区 2 件） （平成 26 年 6 月 30 日 09 時 00 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）6 月 25 日
概要	6 月 25 日の昼過ぎから夕方にかけて、東京地方では断続的に雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となった。この大雨により、23 区西部では、住家の浸水や道路冠水の被害が発生した。
観測値	東京地方では明け方から夜のはじめ頃にかけて断続的な雨となった。特に昼過

	ぎから夕方にかけては雷を伴い非常に激しく降ったところがあった。解析雨量によると、昼過ぎに 23 区西部で 1 時間に 60 ミリを超える非常に激しい雨を解析した。
災害の状況	○物的被害： ・ 床上浸水 7 件（練馬区 3 件、板橋区 4 件） ・ 床下浸水 5 件（練馬区 4 件、板橋区 1 件） ・ 道路冠水 8 件（板橋区 8 件） （平成 26 年 6 月 26 日 15 時 00 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）6 月 24 日
概要	6 月 24 日の昼前から夕方にかけて、東京地方では断続的に雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となった。また、ひょうが降ったところもあった。これらの影響により、多摩北部や 23 区西部で住家の浸水や降ひょうによる被害が発生した。
観測値	東京都では昼前から夕方にかけて雷を伴った雨となった。解析雨量によると、昼過ぎから夕方にかけては、多摩北部や 23 区西部で 1 時間に 50 ミリを超える非常に激しい雨を解析した。また、ひょうが降ったところがあった。
災害の状況	○物的被害：被害合計 52 件（4 区、2 市） ・ 床上浸水 28 件（中野区 1 件、練馬区 2 件、三鷹市 16 件、調布市 9 件） ・ 床下浸水 24 件（世田谷区 2 件、中野区 1 件、杉並区 8 件、三鷹市 5 件、調布市 8 件） （平成 26 年 6 月 24 日 21 時 30 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報
大雨	
期間	2014 年（平成 26 年）6 月 5 日～10 日
概要	平成 26 年 6 月 5 日から 10 日にかけて、日本の南海上の前線や日本付近の動きの遅い低気圧に向かって流れ込んだ暖かく湿った空気の影響により、東京都では断続的に強い雨が降り続き、大雨となった。この大雨の影響により、東京都では床上や床下の浸水被害が発生したほか、道路冠水等による交通障害も発生し、道路や鉄道など交通機関にも影響をおよぼした。
観測値	降り始めの 5 日から 9 日 24 時までの解析雨量積算では、東京地方を中心に 300 ミリ以上の雨を解析した。東京（千代田区大手町）では、6 日 10 時から 7 日 10 時までに 165.5 ミリを観測し、統計開始以来 6 月としての月最大 24 時間降水量第 1 位を更新した。アメダスでは 6 月 6 日に、青梅市新町で 213.5 ミリ、八王子市元本郷町で 196.0 ミリ、府中市幸町で 163.0 ミリを観測するなど 5 地点で統計開始以来 6 月としての日降水量第 1 位を更新した。
災害の状況	○物的被害：床上浸水 1 件、床下浸水 7 件 （平成 26 年 6 月 9 日 17 時 00 分時点）
資料	○東京管区 HP 掲載資料 ・ 気象速報

2013 年（平成 25 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2013年 10月16日	台風第26号	大型で強い台風第26号が関東地方沿岸に接近したため、大島町を中心に大規模な土砂災害が発生した。	期間降水量: 824.0mm (10月15日6時～16日9時: 大島) 最大風速: 南南西 25.0m/s (10月16日04時11分: 八丈島)	東京地方(死者36、行方不明4、住家全壊46、半壊40)
2013年 9月15日～9月16日	台風第18号	台風第18号は、9月16日8時前に愛知県豊橋市付近に上陸し、その後も勢力を維持したまま関東地方を北東に進んだ。	期間降水量: 257.0mm (9月14日21時～16日21時: 八王子) 最大風速: 南 28.0m/s (9月16日07時06分: 三宅島坪田)	東京地方(負傷者3、住家一部損壊4、床下浸水1)
2013年 8月21日	大雨	暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、各地で大雨となった。	最大日降水量: 42.0mm (8月21日: 練馬)	東京地方(床上浸水約80、床下浸水約100)
2013年 8月12日	大雨	上空の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり、各地で大雨となった。	最大日降水量: 49.0mm (8月12日: 練馬)	東京地方(床上浸水約20、床下浸水約20)
2013年 7月23日	大雨	気温が上昇し、大気の状態が非常に不安定となり、各地で大雨となった。	最大日降水量: 65.0mm (7月23日: 世田谷) 最大1時間降水量: 59.5mm (7月23日16時53分: 世田谷)	東京地方(床上浸水約280、床下浸水約110)
2013年 1月14日～1月15日	大雪	低気圧が発達しながら日本の南海上を東進し、寒気が流れ込み、東京地方で大雪となった。	最深積雪: 8cm (1月14日: 東京)	東京地方(負傷者約290)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 10 月 16 日 台風第 26 号による暴風・大雨（速報）
- ・ 9 月 15 日～16 日 台風第 18 号による大雨（速報）
- ・ 7 月 22 日～8 月 1 日 梅雨前線および大気不安定による大雨（速報）

2012 年（平成 24 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2012年9月30日 ～10月1日	強風	台風第17号が関東甲信地方を通過した。	最大風速: 南 25.1m/s (9月30日17時36分: 三宅坪田) 最大瞬間風速: 南 38.1m/s (9月30日21時2分: 八王子)	東京地方(負傷者1、一部損壊2)
2012年6月19日	強風	台風第4号が19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸、その後愛知県東部に再上陸し、北東進した。	最大風速: 南南東 25.4m/s (6月19日22時50分: 羽田) 最大瞬間風速: 南東 35.2m/s (6月19日22時26分: 八王子)	東京23区内(負傷者1)
2012年4月3日	強風	発達中の低気圧が日本海を東北東に進み、低気圧からのびる寒冷前線が本州付近を通過した。	最大風速: 南 27.2m/s (4月3日18時59分: 羽田) 最大瞬間風速: 南 38.9m/s (4月3日18時21分: 八王子)	東京23区内(負傷者3)
2012年3月31日	強風	発達中の低気圧が北日本を北東に進み、低気圧からのびる寒冷前線が昼過ぎから夕方にかけて関東地方を通過した。	最大風速: 南南西 19.2m/s (3月31日10時30分: 江戸川臨海) 最大瞬間風速: 南南東 28.5m/s (3月31日12時24分: 東京)	東京23区内(負傷者1、一部損壊1)
2012年3月6日	強風	本州沿岸の前線を低気圧が東進し、大気の状態が不安定となった。	最大風速: 南南西 19.2m/s (3月6日7時32分: 三宅坪田) 最大瞬間風速: 南西 26.8m/s (3月6日9時20分: 八丈島)	三宅島(一部損壊1)
2012年3月5日	大雨	前線が九州から伊豆諸島付近にのび、前線上の低気圧が東に進んだ。低気圧や前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、伊豆諸島や太平洋側では、大気の状態が不安定となり大雨となった。	最大日降水量: 251.5mm (3月5日: 神津島) 最大1時間降水量: 55.5mm (3月5日14時17分: 神津島)	伊豆諸島(がけ崩れ1)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 4 月 3 日～5 日 低気圧による暴風・高波（速報）

2011 年（平成 23 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2011年9月21日	大雨、強風	台風第15号が本州の南海上を北東進し静岡県に上陸後、関東地方を通過した。	最大日降水量:200.0mm (9月21日:八王子) 最大風速:南南西 30.5m/s (9月21日18時25分:江戸川臨海)	東京地方(負傷者6、一部損壊1、床下浸水3)
2011年8月31日 ～9月5日	大雨	台風第12号の北上に伴い湿った空気が流れ込み、山沿いを中心に発達した雨雲がかかった。	最大日降水量:147.0mm (9月1日:小沢)	多摩地域(かけ崩れ1)
2011年8月26日	大雨、強雨	活動の活発な前線が東日本を南下し大雨となった。	最大日降水量:111.0mm (8月26日:羽田) 最大1時間降水量:90.5mm (8月26日15時54分:練馬)	東京地方(床上浸水29、床下浸水98)
2011年5月29日 ～30日	大雨	台風第2号から変わった低気圧が本州の南岸を東進した。この低気圧からのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった。	最大日降水量:91.0mm (5月29日:府中)	多摩地域(かけ崩れ1)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・9月15日～22日 台風第15号による暴風・大雨（速報）
- ・8月30日～9月5日 台風第12号による大雨と暴風

2010 年（平成 22 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2010年12月2日 ～3日	大雨、強風	日本海の非常に発達した低気圧から延びる前線が通過し、大気の状態が不安定となった。	最大日降水量:101.5mm (12月3日:世田谷) 最大風速:南 22.6m/s (12月3日7時33分:三宅坪田)	東京23区内(死者1人、負傷者5人)、三宅島(一部損壊1)
2010年7月17日 ～9月17日	高温(長期)	太平洋高気圧に覆われて、高温傾向が持続した。	日最高気温:37.2℃ (8月17日:東京) 日最高気温:38.2℃ (8月17日:練馬)	東京23区内(死者138人)
2010年9月8日	強雨	台風第9号の影響で、南海上から湿った空気が流れこみ、短時間に強い雨が観測された。	最大日降水量:102.0mm (9月8日:東京) 最大1時間降水量:68.0mm (9月8日15時3分:東京)	東京23区内(床上浸水2、床下浸水6)
2010年8月18日	強雨	高気圧に覆われ気温が高くなり体気の状態が不安定となった。	最大1時間降水量:30.5mm (8月18日18時3分:八王子)	東村山市(床下浸水1)
2010年7月5日	大雨	南海上に梅雨前線が停滞し湿った空気が入りやすい状況の中、上空に寒気を伴った気圧の谷が接近し、大気の状態が不安定となった。	最大日降水量:76.5mm (7月5日:青梅) 最大1時間降水量:69.0mm (7月5日20時42分:練馬)	東京地方(行方不明1人、床上浸水336、床下浸水372、かけ崩れ1)
2010年3月21日	強風	低気圧が日本海を発達しながら北東に進み、低気圧からのびる寒冷前線が本州付近を通過。	最大風速:南西 14.8m/s (3月21日:府中) 最大瞬間風速:南南西 30.0m/s (3月21日3時27分:府中)	調布市(負傷者3)

2009 年（平成 21 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2009年10月24日～25日	波浪	25日は、北日本に高気圧、南海上に停滞前線が存在し、気圧の傾きが急になっていた。26日は、同海域を台風第20号が通過した。	最大風速：北北東20.4m/s(10月25日20時20分：三宅島)	漁船転覆(死者・行方不明者5)
2009年10月7日～8日	大雨	大型の台風18号が愛知県に上陸し本州を縦断したため、大雨、暴風、高波が発生。	最大日降水量：127.0mm(10月8日：東京) 最大1時間降水量：68.0mm(10月8日1時49分：大島北ノ山)、23.5mm(10月8日2時2分：八丈島)	文京区(床上浸水4)、足立区(床下浸水3) 大島(山がけ崩れ1、道路損壊1) 八丈島(道路損壊1)
2009年8月30日～31日	大雨	台風が南海上から北上し、八丈島、三宅島付近が暴風や大雨となった。	最大日降水量：139.0mm(8月31日：三宅島)	御蔵島(山がけ崩れ2)
2009年8月10日	大雨	南海上からの暖湿流が流入し大気の状態が不安定となる。	最大1時間降水量：59.0mm(8月10日7時33分：東京)	北区、足立区、豊島区、荒川区、台東区(床上浸水21、床下浸水4)
2009年8月9日	大雨	南海上からの暖湿流が流入し大気の状態が不安定となる。	最大1時間降水量：9.0mm(8月9日17時28分：練馬)	北区(負傷者5、床上浸水7、床下浸水5)
2009年6月5日～6日	大雨	本州の南海上を前線を伴った低気圧が通過した。	最大日降水量：158.5mm(6月5日：八丈島)	八丈島(山がけ崩れ2)
2009年5月28日	大雨、強風	四国沖に上空に寒気を伴った低気圧が停滞。暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。	日降水量：247.5mm(5月28日：八丈島) 最大瞬間風速：北東25.1m/s(5月28日19時8分：三宅島)	八丈島(山がけ崩れ1) 三宅島(住家全壊1)
2009年3月22日	強風	前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を東北東に進み、低気圧の東～南東側で強風となった。	最大瞬間風速：南23.4m/s(3月22日13時1分：八王子)	八王子市(負傷者1)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 10 月 6 日～9 日 台風第 18 号による暴風・大雨（速報）
- ・ 8 月 8 日～11 日 熱帯低気圧・台風第 9 号による大雨

2008 年（平成 20 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2008年12月5日	強風	サハリン付近の低気圧から延びる寒冷前線が本州付近を通過した。この寒冷前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった。	最大瞬間風速：南 20.5m/s(12月5日 9時41分：八王子)	品川区（一部損壊38）
2008年8月28日～29日	大雨	本州上に前線が停滞し大気の状態が不安定になり、大雨となった。	最大日降水量：153.5mm(8月29日：世田谷) 最大1時間降水量：63.0mm(8月29日 2時8分：八王子)	多摩地域（道路損壊1、崖崩れ2、床上浸水5、床下浸水8）
2008年8月5日	大雨	関東甲信地方に前線が停滞し大気の状態が不安定となり、大雨となった。	最大日降水量：111.5mm(8月5日：東京) 最大1時間降水量：59.5mm(8月5日 15時17分：東京)	千代田区、新宿区、文京区、豊島区（死者5、床上浸水19、床下浸水11）
2008年7月29日	大雨	寒気を伴った気圧の谷が通過した影響で、雷を伴った強雨となった。	最大日降水量：41.5mm(7月29日：練馬) 最大1時間降水量：41.5mm(7月29日 21時40分：練馬)	新宿区、世田谷区、豊島区（床上浸水14、床下浸水14、非住家被害32）
2008年7月12日	強風	寒気を伴った気圧の谷が本州の上空を通過した為、大気の状態が不安定となった。この影響で、23区西部を中心に積乱雲がところどころで発生した。渋谷区、目黒区、港区、江東区で突風が発生した時間帯は、活発な積乱雲が被害域を通過中だった。	最大瞬間風速：南 12.8)m/s(7月12日 15時25分：東京)	渋谷区（負傷者1）
2008年7月8日	大雨	本州付近を気圧の谷が通過した影響で強雨となった。	最大日降水量：36.0mm(7月8日：世田谷) 最大1時間降水量：30.5mm(7月8日 10時30分：世田谷)	大田区（死者1）
2008年6月21日	大雨	梅雨前線による影響で雨となった。	最大日降水量：60.0mm(6月21日：三宅坪田) 最大1時間降水量：26.0mm(6月21日 3時30分：三宅坪田)	三宅島（道路損壊1、崖崩れ2）

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 8 月 26 日～31 日 平成 20 年 8 月末豪雨
- ・ 8 月 4 日～9 日 大気の状態不安定による大雨
- ・ 7 月 27 日～29 日 大気の状態不安定による大雨と突風

2007 年（平成 19 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2007年10月26日～27日	台風第20号	台風第20号は速度を速めながら本州の南海上を北東に進み、27日昼過ぎには伊豆諸島が暴風域に入り、27日夕方に八丈島と三宅島の間を通過し、27日夜に関東の南東海上を北東に進んだ。	最大日降水量:399.5mm(10月27日:三宅島) 最大瞬間風速:南 42.5m/s(10月27日15時6分:八丈島)	伊豆諸島(崖崩れ5)
2007年9月5日～7日	台風第9号	7日未明に台風第9号が神奈川県小田原市付近に上陸、関東地方を北上し、都内では風雨が強まった。	最大日降水量:482mm(9月6日:小河内) 最大瞬間風速:南南西 50.7m/s(9月6日21時45分:三宅島)	東京地方・伊豆諸島(負傷者2、住家全壊2、一部損壊189)
2007年9月6日	強風	6日午前3時には、台風第9号が八丈島の南南西の海上にあって北北西に進んでいた。関東地方には台風からの湿った空気が流れ込んでおり、調布市で突風が発生した時間帯には、活発な積乱雲が被害地域付近を通過していた。	最大瞬間風速:東南東 29.0m/s(9月6日21時55分:東京)	調布市(負傷者1)
2007年8月11日～27日	高温(長期)	太平洋高気圧に覆われ、11日～27日にかけて高温が続いた。	日最高気温:38.7℃(8月16日11時30分:練馬)	東京地方(死者6人)
2007年7月14日～15日	台風第4号	台風第4号本体と梅雨前線による発達した雨雲の影響で、伊豆諸島および東海地方から関東甲信地方の沿岸を中心に、非常に激しい風雨となった。	最大日降水量:163mm(7月14日:大島北ノ山) 最大瞬間風速:南西 40.3m/s(7月15日10時33分:八丈島)	伊豆諸島(道路損壊3、崖崩れ2)
2007年4月28日	強風	寒気を伴った低気圧が関東地方の上空を通過したため、大気の状態が不安定となり東京都内で突風が発生した。	最大瞬間風速:北北西 30.8m/s(4月28日15時21分:東京)	江戸川区(負傷者21人)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 5 日～7 日 台風第 9 号
- ・ 7 月 1 日～17 日 台風第 4 号と梅雨前線による大雨と暴風

2006 年（平成 18 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2006年10月6日	大雨	5日15時に日本の南海上に停滞していた前線上に低気圧が発生し、発達しながら東に進み、6日09時には八丈島の南を通過し、夜には関東地方の沿岸に達した。また、台風第16号から変わった熱帯低気圧は、8日09時には日本の南海上を北東に進んでいた。これら、低気圧や熱帯低気圧の影響で八丈島では6日を中心に大雨となった。	最大日降水量:226.0mm(10月6日:八丈島) 最大1時間降水量:27.5mm(10月6日15時34分:八丈島)	八丈島(崖崩れ3)
2006年9月11日	大雨	秋雨前線が本州南岸に停滞し、9月11日明け方から朝のうちにかけ、東京地方では大気の状態が不安定となり局地的に雷を伴った激しい雨が降った。	最大日降水量:51mm(9月11日:小河内) 最大1時間降水量:36mm(9月11日4時30分:世田谷)	東京地方(床上浸水32、床下浸水57)
2006年8月8日～9日	台風第7号	8月9日、台風第7号は東海道沖から関東の南海上を東北東に進み、夕方には関東の東海上に達した。東京地方や伊豆諸島では台風の接近に伴い、8日～9日にかけて大雨となった。	最大日降水量:372mm(8月8日:三宅伊豆) 最大1時間降水量:75mm(8月9日11時10分:三宅坪田)	東京地方・伊豆諸島(道路損壊9、崖崩れ4)
2006年7月19日～21日	大雨	本州の南岸に停滞していた梅雨前線は、20日には八丈島付近まで南下した。このため、八丈島で19日～21日にかけて大雨となり、特に、20日には日降水量199.5ミリを観測した。	最大日降水量:199.5mm(7月20日:八丈島) 最大1時間降水量:53.0mm(7月19日翌0時14分:八丈島)	八丈島(道路損壊2)
2006年6月24日	大雨	本州の南岸に停滞していた梅雨前線がゆっくり南下し、24日に伊豆諸島南部を通過した。このため、八丈島では明け方に激しい雨が降り、大雨となった。	最大日降水量:68.5mm(6月24日:八丈島) 最大1時間降水量:46.5mm(6月24日4時35分:八丈島)	八丈島(道路損壊4、崖崩れ2)
2006年5月24日	大雨	24日は上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となった。このため、東京地方では昼過ぎから雷雲が発生、発達し夕方から宵の内を中心に雷を伴った激しい雨が降った。	最大日降水量:71mm(5月24日:練馬) 最大1時間降水量:44mm(5月24日19時0分:練馬)	東京地方(床上浸水2、床下浸水12)
2006年1月21日～22日	大雪	本州の南海上を低気圧が発達しながら東進した。大手町では20日の夜遅くから雨が降り出し、翌21日になってみぞれから明け方には雪に変わり、06時に積雪1cmを観測した。雪は降り続き夜遅くみぞれに変わり止んだ。日最深積雪は21日17時と19時に9cmを観測した。	最深積雪:9cm(1月21日19時:東京)	東京地方(負傷者235人)
2005年10月18日～19日	台風第20号	強い台風第20号が10月18日から19日明け方にかけて八丈島に接近、八丈島の南海上約80キロを通過し、東進した。	最大日降水量:117.5mm(10月18日:八丈島) 最大瞬間風速:北東 32.1m/s(10月18日19時41分:八丈島)	八丈島(住家一部損壊1、道路損壊4)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 10 月 4 日～9 日 低気圧による暴風と大雨
- ・ 7 月 15 日～24 日 平成 18 年 7 月豪雨
- ・ 6 月 21 日～28 日 梅雨前線による大雨

2005 年（平成 17 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2005年9月24日～25日	台風第17号	台風第17号が24日夜から25日朝の内にかけて伊豆諸島南部に接近し、八丈島の南海上を通過し北東進した。台風の接近・通過に伴い、八丈島では最大瞬間風速52.7m/s(北東)の猛烈な風を観測した。	最大日降水量:230mm(9月25日:三宅島阿古) 最大瞬間風速:北東 52.7m/s(9月25日3時52分:八丈島)	伊豆諸島南部(一部損壊25)
2005年9月4日～5日	大雨	台風第14号の影響で暖く湿った空気が流入したため大気の状態が不安定となり、9月4日夜から5日未明にかけて、東京23区及び多摩北部の一部地域で雷を伴った激しい雨が降った。このため、善福寺川、妙正寺川、神田川、石神井川の溢水や内水氾濫により床上、床下浸水が発生した。	最大日降水量:113mm(9月4日:練馬) 最大1時間降水量:66.0mm(9月4日23時57分:東京)	東京地方(床上浸水2349、床下浸水2129)
2005年8月25日～26日	台風第11号	台風第11号が日本の南海上を北上し、26日0時頃に大島付近を通過し、4時頃に千葉市付近に上陸した。このため、伊豆諸島北部では大雨となり、猛烈な風が吹いた。	最大日降水量:265.5mm(8月25日:大島) 最大瞬間風速:南 57.0m/s(8月25日23時41分:大島)	大島町(一部損壊52)
2005年8月15日	大雨	日本の上空に寒気が入り、東京地方では大気の状態が不安定となり、15日夜に雷を伴った非常に激しい雨が降った。このため、都内を流れる善福寺川と妙正寺川が氾濫するなどして、床上、床下浸水が発生した。	最大1時間降水量:58mm(8月15日21時50分:練馬)	東京地方(床上浸水92、床下浸水103)
2005年7月26日	台風第7号	台風第7号が26日、八丈島の西海上を北東に進み、夕方三宅島付近を通過した。	最大日降水量:163mm(7月26日:小河内) 最大瞬間風速:南南西 33.0m/s(7月26日10時07分:八丈島)	伊豆諸島南部(一部損壊2)
2005年5月30日	大雨	日本の南の海上にあった停滞前線に低気圧が発生し、30日から31日にかけて伊豆諸島北部の南を北北東へ進んだ。このため、30日宵のうちから31日明け方にかけて大島を中心に、雷を伴い非常に激しい雨が降って大雨となった。	最大日降水量:112mm(5月31日:大島) 最大1時間降水量:67.5mm(5月31日2時11分:大島)	大島町(がけ崩れ5)
2005年5月15日	強風	日本の上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となっていた。発達した雷雲が東京都多摩地方から神奈川県東部を南東進し、雷雲の通過した各地で雷雨や降ひょう、突風が発生した。	最大風速:南東 8m/s(5月15日15時10分:八王子)	東京地方(非住家被害4)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9月3日～8日 台風第14号、前線
- ・ 8月24日～26日 台風第11号

2004 年（平成 16 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2004年 12月04日～12月05日	強風	4日に東シナ海で発生した低気圧が、発達しながら5日朝にかけて本州を横断した。この低気圧の影響で八丈島では西南西の風 40.3m/s の最大瞬間風速を観測した。	最大風速：南南西 30m/s(12月5日 05時30分：三宅坪田) 最大瞬間風速：西南西 40.3m/s(12月5日07時17分：八丈島)	八丈島（一部損壊）
2004年 10月19日～10月21日	台風第23号	台風第23号が20日13時頃に高知県土佐清水市付近に上陸した。その後、近畿・東海・関東甲信地方を横断し、21日06時頃には銚子沖に進んだ。	最大日降水量：202mm(10月20日：世田谷) 最大瞬間風速：南南西 31.0m/s(10月20日21時59分：大島)	東京地方・伊豆諸島北部(床上浸水72、床下浸水141)
2004年 10月08日～10月09日	台風第22号	台風第22号は、9日16時ころ伊豆半島に上陸し、その後北東へ進み20時ころには鹿島灘の海上に進んだ。これに伴い、東海地方から関東地方にかけ停滞していた前線の活動が活発となり、伊豆諸島北部や東京都内で短時間に激しい雨が降った。	最大日降水量：222.5mm(10月9日：東京) 最大瞬間風速：南西 51.5m/s(10月9日16時25分：大島)	東京地方・伊豆諸島北部(一部損壊1、床上浸水281、床下浸水817)
2004年2月23日	強風	冬型の気圧配置による季節風により23日11時40分頃、世田谷区で突風により、家屋の屋根や壁面等一部が損壊した。	最大風速：南西 11.3m/s(2月23日00時50分：東京) 最大瞬間風速：西南西 25.5m/s(2月23日00時33分：東京)	世田谷区（一部損壊）

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 10 月 18 日～21 日 台風第 23 号、前線
- ・ 10 月 7 日～9 日 台風第 22 号、前線

2003 年（平成 15 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2003年10月13日	強雨	13日午後から前線を伴った低気圧が関東地方を通過し、東京では14時頃から激しい雨となった。	最大1時間降水量：57.5mm(10月13日14時35分：東京) 最大10分間降水量：19.0mm(10月13日14時12分：東京)	東京地方(床上浸水40、床下浸水72)
2003年 9月21日～9月22日	台風第15号	台風第15号が21日に四国の南海上から関東の南海上を北東に進んだ。21日24時頃には八丈島の南南東50kmを通過し、伊豆諸島で住家の損壊など広範囲に被害が発生した。	最大瞬間風速：北東 59.5m/s(9月21日23時34分：八丈島) 最大日降水量：210mm(9月21日：三宅島阿古)	伊豆諸島(全壊6、一部損壊19)
2003年9月3日	大雨	3日の日中は晴れて気温が上昇し、大気の状態が不安定になっていたところに、夕方から夜にかけて寒冷前線が接近・通過したため激しい雷雨となった。	最大1時間降水量：27.5mm(9月3日18時51分：東京) 最大10分間降水量：21.0mm(9月3日18時32分：東京)	東京地方(床上浸水2、床下浸水68)
2003年8月5日	大雨	5日の日中は晴れて気温が上昇し、午後から前線がゆっくり南下したため、大気の状態が不安定となり、短時間に雷を伴った激しい雨となった。	最大日降水量：91mm(8月5日：小河内) 最大1時間降水量：46mm(8月5日19時20分：小河内)	八王子市(道路損壊1)
2003年 6月25日～6月26日	大雨	24日に関東南岸にあった梅雨前線が25日北上し、その影響により関東地方の一部で雨が強く降った。	最大日降水量：59mm(6月25日：府中) 最大1時間降水量：40mm(6月25日：練馬、府中)	東京地方(床上浸水2、床下浸水1)
2003年 5月20日～5月21日	大雨	20日は上空に寒気が入り大気の状態が不安定となり、関東地方各地で午後から雷雨となった。	最大日降水量：51mm(5月20日：府中) 最大1時間降水量：44mm(5月20日18時30分：府中)	中野区(床上浸水8)

2002 年（平成 14 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2002年 10月6日～10月7日	竜巻	伊豆諸島北部は、7日明け方に日本海にある発達した低気圧の暖域に入り、大気の状態が不安定となった。このため大島で午前3時頃に激しい雷雨を観測し、竜巻によると推定される突風が吹いた。	最大瞬間風速：南南東 29.2m/s(10月7日03時07分：大島)	大島町(全壊1)
2002年 9月30日～10月2日	台風第21号	台風第21号は、1日19時に大島付近を通過し、神奈川県に上陸後、東北地方を縦断した。このため、1日の午後から夜にかけて風と雨が強くなった。	最大瞬間風速：西南西 49.3m/s(10月1日 19時18分：三宅島) 最大日降水量：195mm(10月1日：八王子)	都内全域(全壊1、一部損壊24、床上浸水56、床下浸水136)
2002年 8月18日～8月19日	台風第13号	日本の南海上を北上した台風第13号の影響で、伊豆諸島を中心に風が強く激しい雨となった。	最大日降水量：367mm(8月19日：神津島) 最大瞬間風速：北東 41.8m/s(8月19日 19時26分：三宅島)	多摩地域・伊豆諸島(軽傷1、一部損壊1、床上浸水1、床下浸水4)
2002年7月16日	台風第7号	台風第7号が日本の南海上を北東進し、16日9時には伊豆半島に上陸、その後、房総半島に再上陸し、屋過ぎには銚子の北東海域へ進んだ。このため16日から17日にかけて風が強く、伊豆諸島を中心に大雨となった。	最大瞬間風速：南南西 46.2m/s(7月16日 9時59分：三宅島)	御蔵島村(一部損壊5)
2002年 7月10日～7月11日	台風第6号	台風第6号が10日に日本の南海上を北上、11日未明には房総半島に上陸し、関東の東海上へ抜けた。このため関東地方は風が強く大雨となった。	最大瞬間風速：南西 46.1m/s(7月10日 22時47分：八丈島) 最大日降水量：257mm(7月10日：小沢)	青梅市・世田谷区・八丈町(床上浸水・床下浸水・半壊・一部損壊)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 30 日～10 月 3 日 台風第 21 号
- ・ 7 月 8 日～12 日 台風第 6 号、梅雨前線

2001 年（平成 13 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2001年9月10日	竜巻	台風第15号が10日10時には潮の岬の南東約160kmにあり、10km/hで北北西進しており、関東地方は台風を取り巻く降雨帯がかかり断続的な降水となった。この降雨帯のかかった10時過ぎに竜巻が発生した。	最大瞬間風速：東南東 17.5m/s(9月10日 11時28分：東京)	八王子市・多摩市・町田市(軽傷・一部損壊)
2001年9月8日～11日	台風第15号	台風第15号が11日09時30分頃神奈川県鎌倉市付近に上陸し、東京都心、茨城県付近を経て北上した。このため山間部を中心に大雨となった。	最大日降水量：347mm(9月10日：小河内) 最大1時間降水量：62mm(9月10日10時00分：小沢)	都内大部分(鉄道・航空 運休)
2001年8月21日～22日	台風第11号	台風第11号は21日19時頃紀伊半島に上陸し、太平洋沿岸に沿ってゆっくり北上し、22日15時頃に東京地方に最も接近した。台風前面の雨域の影響で、各地で大雨となった。	最大日降水量：142mm(8月22日：小河内) 最大1時間降水量：44mm(8月21日21時00分：府中)	都内大部分(死者・行方不明2、床下浸水4)
2001年1月27日～28日	大雪	日本の南岸を低気圧が通過し、27日未明から雪が降り積雪となった。	最深積雪：50cm(1月28日9時：小河内) 8cm(1月27日17時：東京)	都内大部分(死亡1、負傷者253)
2001年1月20日～21日	大雪	日本の南岸を低気圧が発達しながら通過し、20日の夕方から21日の未明にかけて雪が降り積雪となった。	最深積雪：19cm(1月21日9時：小沢)	都内大部分(負傷者126)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 8 日～12 日 台風第 15 号
- ・ 8 月 20 日～22 日 台風第 11 号

2000 年（平成 12 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
2000年12月25日	竜巻	日本海上空に気圧の谷があり、紀伊半島沖の太平洋側の下層では暖かい空気の流れがあって、大気の状態が不安定となった。	最大瞬間風速：西27.9m/s(12月25日18時37分：大島)	足立区・大島(軽傷1半壊2)
2000年9月12日	大雨	沖縄の東に台風第14号、日本列島に停滞前線があり、東京地方には暖かい空気が入って局地的な強雨となった。	最大1時間降水量：56.0mm(9月12日9時～10時：府中)	区部・多摩地域(軽傷1一部損壊1床上浸水28床下浸水202)
2000年8月7日	大雨	上空に強い寒気が入り、大気の状態が不安定となり、夕方から雷を伴った局地的な強雨となった。	最大1時間降水量：67.5mm(8月7日18時18分～19時18分：東京)	区部中心(床上浸水2床下浸水8)
2000年8月5日	大雨	上空に寒気が入り大気の状態が不安定となり、夜に都心で雷を伴った強雨となった。	最大1時間降水量：43.0mm(8月5日21時49分～22時49分：東京)	新宿区・豊島区ほか(床上浸水11床下浸水15)
2000年7月7日～8日	台風第3号	台風第3号が7日夜から8日朝にかけて、伊豆諸島を通過し北東へ進んだ。このため、各地で風が強く、大雨となった。また、海上は暴風、大しけとなった。	最大瞬間風速：南南西49.3m/s(7月8日0時8分：八丈島) 最大日降水量：225.0mm(7月7日：大島)	都内全域(軽傷1全壊3一部損壊13床上浸水4床下浸水33)
2000年7月3日～4日	大雨	東北地方に停滞している前線に、南西からの湿った暖かい空気が入り、大気の状態が不安定となり、昼頃から雷を伴った雨が降った。東京では3日と4日に、直径7ミリのひょうを観測した。	最大1時間降水量：82.5mm(7月4日17時37分～18時37分：東京)	区部全域(床上浸水133床下浸水300)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 8 日～17 日 停滞前線、台風第 14・15・17 号
- ・ 7 月 3 日～9 日 大気の状態不安定、台風第 3 号

1999 年（平成 11 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1999年8月29日	大雨	熱帯性低気圧が日本の東海上に去ったが、引き続き大気の状態が不安定で、雷を伴った大雨となった。	最大1時間降水量:58.5mm(8月29日19時13分～20時13分:東京)	区部中心(床上浸水1168床下浸水1372)
1999年8月24日	大雨	8月24日の夕方から夜半にかけて寒冷前線が通過し、大気の状態が不安定となり、雷を伴った大雨となった。	最大1時間降水量:56.0mm(8月24日19時15分～20時15分:東京)	区部・多摩地域(一部損壊1床上浸水70床下浸水43)
1999年8月13日～8月14日	大雨	13日から14日にかけて、熱帯性低気圧が近づき大雨となった。	最大日降水量:345.0mm(8月14日:八王子) 最大日降水量:274.0mm(8月14日:青梅) 最大日降水量:224.0mm(8月14日:府中)	区部・多摩地域(半壊2一部損壊2床上浸水46床下浸水319)
1999年7月21日	大雨	南からの暖かい湿った気流と北からの寒たい気流のため大気の状態が不安定となり、雷を伴った大雨となった。	最大1時間降水量:91.0mm(7月21日15時～16時:練馬)	新宿区・杉並区ほか(死者1重傷1軽傷2床上浸水493床下浸水315)
1999年7月12日～15日	大雨	12日から15日にかけて、日本の南海上に熱帯低気圧があり、南よりの湿った暖かい空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、各地で大雨となった。	最大日降水量:130.5mm(7月13日:東京)	大田区・荒川区(重傷1軽傷1床上浸水4床下浸水11)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 8 月 13 日～16 日 熱帯低気圧

1998 年（平成 10 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1998年9月15日～9月16日	台風第5号	15日から16日にかけて台風第5号が南海上を北上、御前崎付近に上陸して八王子付近を通過し北北東進した。このため風が強く大雨となった。	最大瞬間風速:南西42.1m/s(9月16日5時1分:八丈島) 最大日降水量:187.0mm(9月16日:小沢)	都内全域 (一部損壊13床上浸水10床下浸水22)
1998年9月7日～9月8日	大雨	7日から8日にかけて、南海上を低気圧が通過し伊豆諸島を中心に大雨となった。	最大日降水量:419.5mm(9月7日:八丈島)	八丈島(軽傷1床上浸水1床下浸水5)
1998年8月27日～30日	大雨	本州に停滞前線があり、南海上にある台風4号から暖かい湿った空気が流入し大雨となった。27日から28日までの総降水量が400から200ミリとなった。	最大日降水量:214.0mm(8月28日:小沢)	都内全域(床上浸水12床下浸水143)
1998年8月3日	大雨	日本海にある梅雨前線に向う暖気流が流入し、上空に寒気が入りこのため大気の状態が不安定となり、雷を伴った大雨となった。	最大1時間降水量:40.0mm(8月3日19時～20時:小河内)	区部中心(床上浸水46床下浸水85)
1998年7月30日	大雨	寒気を伴った低気圧がありこれに暖気が流入し、大気の状態が不安定となり雷を伴った大雨となった。特に、八王子では14時から15時の1時間降水量62ミリを観測し、1983年以降で最大値となった。	最大1時間降水量:62.0mm(7月30日14時～15時:八王子)	都内各地(軽傷1半壊1一部損壊2床上浸水12床下浸水57)
1998年3月5日～6日	大雨	関東の南海上を前線を伴った低気圧が発達しながら東進し、5日から6日にかけて雨や雪となった。	最大日降水量:200.5mm(3月5日:八丈島)	伊豆諸島南部(半壊1、一部損壊10)
1998年1月15日～16日	大雪	15日に関東の南岸を低気圧が東北東進し、未明から夜まで雪やみぞれが降り続いた。今月の8日から9日にかけての大雪時より積雪がうわまった。また、気温が低く路面の凍結が発生した。	最深積雪:16cm(1月15日21時0分:東京)	都内各地(死者1軽傷2一部損壊26)
1998年1月8日～10日	大雪	8日から9日にかけて関東の南岸を低気圧が東北東進し、8日昼頃から9日の朝まで雪となった。このため東2年ぶりの大雪となった。また、気温が低くなり路面の凍結が発生した。	最深積雪:15cm(1月9日6時0分:東京)	区部全域(軽傷4一部損壊6)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 15 日～17 日 台風第 5 号
- ・ 8 月 26 日～31 日 前線、台風第 4 号
- ・ 8 月 3 日～7 日 梅雨前線

1997 年（平成 9 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1997年11月17日	竜巻	11月17日9時には、紀伊半島の南に低気圧があり北東に移動しており、これから東西にのびた温暖前線が八丈島の北を通過していた。八丈島は、雷を伴った雨となっており竜巻が発生した。	最大瞬間風速：南西36.9m/s(11月17日8時33分：八丈島)	八丈島(重傷1軽傷5全壊4半壊4一部損壊49)
1997年8月23日～24日	大雨	23日は、上空に寒気の流入したため、大気の状態が不安定となり、夕方から都内を中心に雷を伴った大雨となった。	最大1時間降水量：65.0mm(8月23日21時～22時：世田谷) 最大1時間降水量：50.0mm(8月23日21時～22時：府中)	品川・目黒ほか(床上浸水111床下浸水177)
1997年6月19日～20日	台風第7号	前線が日本付近に停滞しており、大型で強い台風第7号が20日12時に愛知県へ上陸、北東に進み東日本を通過した。このため、強風と大雨となった。	最大瞬間風速：南36.4m/s(6月20日13時44分：大島) 最大瞬間風速：南29.5m/s(6月20日15時18分：東京)	渋谷・武蔵村山ほか(死者1重傷1軽傷2一部損壊20床上浸水1床下浸水6)
1997年4月6日～7日	大雨	4月3日から7日まで、本州南岸の東西に延びる前線を低気圧が次々と東進し雨となった。特に、6日と7日は東京都の全域でまとまった雨となり、2日間の降水量が世田谷の96ミリをはじめ各観測所でも40ミリ以上を観測した。	最大1時間降水量：20.0mm(4月7日18時～19時：練馬)	新宿・千代田(床上浸水2床下浸水2)

1996 年（平成 8 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1996年9月21日～22日	台風第17号	大型で強い台風第17号が21日21時に八丈島の南西約550km、22日9時には八丈島の南西約110km、12時には三宅島の南約60km、15時には銚子市の南約80km、18時にはいわき市の南東約150kmの海上を移動した。このため、東京地方は、22日に暴風雨となり、海上では大時化となった。	最大瞬間風速：西51.5m/s(9月22日13時27分：八丈島) 最大日降水量：387.0mm(9月22日：新島)	都内全域(軽傷9全壊1半壊5一部損壊199床上浸水10床下浸水72)

【気象庁 HP 掲載資料】

・9月21日～23日 台風第17号

1995 年（平成 7 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1995年9月16日～17日	台風第12号	日本の遥か南海上で発生した台風第12号は、非常に強い勢力を保ったまま北上した。17日早朝に伊豆諸島南部を北北東進し、八丈島では観測史上最低の932.4hPaを記録した。その後、昼過ぎには房総沖を通過し、夕方には三陸の東海上に達し、18日未明に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。また、本州南岸には秋雨前線が停滞しており、台風の北上で前線活動が活発となり、各地で大雨を記録した。この台風の通過で、伊豆諸島を中心に風雨が強く、三宅島で最大瞬間風速55.4メートルの過去最大を記録した。	最低海面気圧932.3hPa(9月17日8時35分：八丈島) 最大瞬間風速風向欠測55.3m/s(9月17日：三宅島)	島しょ地域(軽傷1、全壊16、半壊24、一部損壊659、床下浸水6)
1995年8月22日	大雨	本州上に寒冷前線が停滞し、海上から湿った南風が吹き込んだため関東地方では大気の状態が不安定となり、午後にかけて特に多摩地区を中心に激しい雷雨となった。	最大1時間降水量：37.0mm(8月22日14時～15時：世田谷)	多摩地域(軽傷1半壊1一部損壊1床上浸水13床下浸水49)
1995年8月6日	大雨	関東地方では6日昼頃から夕方にかけて、大気の状態が不安定となり、多摩地区を中心に13時過ぎから局地的に大雨となった。	最大1時間降水量：29.0mm(8月6日16時～17時：青梅)	多摩地域(一部損壊1床上浸水6床下浸水95)
1995年8月2日	大雨	関東地方は太平洋高気圧に広く覆われ、連日暑い日が続いていた。2日午後には寒冷前線が関東地方まで南下し、上空に寒気が入って大気の状態が不安定となり、23区を中心に局地的に雷雨となった。	最大1時間降水量：29.0mm(8月2日16時～17時：世田谷)	区部・多摩地域(床上浸水59床下浸水52)

【気象庁 HP 掲載資料】

・9月16日～17日 前線、台風第12号

1994 年（平成 6 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1994年9月2日	大雨	寒冷前線の通過で東日本では大気の状態が不安定となり広い地域で雷雲が発生した。このため15時過ぎから局地的な大雨となった。	最大1時間降水量:31.0mm(9月2日16時30分～17時30分:東京)	区部全域(床上浸水18床下浸水99)
1994年8月20日～21日	大雨	日本海にあった寒冷前線が、19日から20日にかけて北日本を通過した。その後、日本の上空に寒気が流れ込み大気の状態が不安定となった。このため関東地方では所々で雷雲が発生し、局地的に大雨となり被害が発生した。	最大1時間降水量:63.0mm(8月20日14時～15時:世田谷)	都内全域(軽傷1一部損壊1床上浸水21床下浸水72)
1994年7月18日	大雨	18日午後上空に寒気が入り大気の状態が不安定となった。このため関東地方を中心に局地的な雷雨となり、強い雨を観測した。	最大1時間降水量:47.0mm(7月18日14時5分～15時5分:東京)	都内全域(床上浸水27床下浸水125)
1994年7月12日	大雨	関東地方は太平洋高気圧に覆われ晴れる日が続き、日中の気温が上昇。山間部を中心に大気の状態が不安定となり、12日は雷雲が発生。午後から山沿い地方を中心に局地的な雷雨となった。	最大1時間降水量:34.0mm(7月12日16時～17時:八王子)	都内全域(床上浸水2床下浸水43)
1994年7月7日	大雨	梅雨前線が本州上をゆっくり南下した。このため関東地方では上空に寒気が入って大気の状態が不安定となり、7日夜にかけて局地的に強い雨を観測した。	最大1時間降水量:41.0mm(7月7日20時～21時:練馬)	都内全域(床上浸水80床下浸水160)
1994年2月20日～23日	強風	本州南岸を低気圧が発達しながら21日夜にかけて伊豆諸島付近を通過した。この低気圧は三陸沖で猛烈に発達しながら北海道沖に進んだ。このため伊豆諸島を中心に強風が吹いた。	最大瞬間風速:北44.9m/s(2月21日10時56分:三宅島)	島しょ地域(一部破損7)
1994年2月12日	大雪	11日夜に九州の南海上にある低気圧が発達しながら東北東進し、12日の午後、関東の南海上を通過した。このため、12日未明から都内では雪が降りだし、関東地方を中心に大雪となった。	最深積雪:23cm(2月12日21時0分:東京)	大田(軽傷15)

1993 年（平成 5 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1993年11月13～14日	大雨	日本海と本州南岸に前線を伴った低気圧があつて、13日夜半から14日未明にかけて関東地方を通過した。このため都内では、13日夕方から本格的な雨となり夜中にかけて強い雨となって、23区内を中心に100ミリ以上の降水量となった。	最大1時間降水量:43.5mm(11月13日23時25分～11月14日0時25分:東京)	都内全域(床上浸水12床下浸水105)
1993年8月26～27日	台風第11号	日本の遥か南海上で発生した台風第11号は、発達しながら北北西に進み26日午後には鳥島の東海上で進路を北に変え、27日未明から伊豆諸島の東側をゆっくり北上し、27日午後には房総半島をかすめながら北北東進し、27日夜には北海道に上陸した。このため各地で大雨となった。	最大日降水量:234.5mm(8月27日:東京) 最大1時間降水量:65.0mm(8月27日12時～13時:東京)	都内全域(一部損壊3床上浸水826床下浸水3312)
1993年6月21日	大雨	20日から21日にかけて、前線をともなった低気圧が日本付近を通過し、北海道の東海上に抜けた。その後、寒気が流入し、大気の状態が不安定となり、関東地方では21日午後にかけて雷雨となった。	最大1時間降水量:22.0mm(6月21日14時～15時:東京)	区部(一部損壊4床上浸水212床下浸水456)

【気象庁 HP 掲載資料】

・ 7 月 31 日～8 月 29 日 梅雨前線、台風第 7・11 号

1992 年（平成 4 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1992年12月7～8日	大雨	日本海と南岸に中心をもつ発達した低気圧が7日から8日にかけて日本付近を通過した。このため、関東地方は、主として南岸の低気圧によって大雨となった。	最大日降水量：71.0mm(12月8日：府中)	都内全域(床上浸水9床下浸水144)
1992年7月15～16日	大雨	梅雨前線が日本の南岸に停滞し、その前線上を低気圧が15日から16日にかけて関東沖を通過した。寒気が流れ込み大気の状態が不安定で、関東地方を中心に雷を伴った大雨となった。	最大日降水量：100.0mm(7月15日：青梅)	都内全域(床上浸水22床下浸水298)
1992年6月20～21日	大雨	20日から21日にかけて、日本の南海上の梅雨前線上を低気圧が発達しながら通過した。また、20日に紀伊半島沖で低気圧が発生し、同日南岸を通過した。後面には強い寒気が流入し、大気の状態が不安定となり各地で雷を伴った大雨となった。	最大日降水量：119.0mm(6月20日：青梅)	多摩地域(床上浸水3床下浸水21)
1992年1月31日～2月1日	大雪	31日9時に四国沖にあった低気圧が発達し、関東の南海上を通り、1日朝に本州の東海上に抜けた。この低気圧に向かって北から寒気が入り込んで、31日夜から関東以北で大雪となった。	最深積雪：17cm(2月1日7時0分：東京)	都内全域(軽傷35一部損壊1)

1991 年（平成 3 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1991年10月5～13日	台風第21号	台風21号は10月4日フィリピンの東で発生し、その後発達しながら北上し、9日には南大東島の南東約160kmの海上に達した。その後進路を北東に変え、13日0時過ぎに八丈島の南約50kmを通り、銚子沖を通過して14日に温帯低気圧になった。台風の接近により、停滞していた秋雨前線の活動が活発となり、8日から13日までの間に東日本を中心に広い範囲で大雨となった。	最大瞬間風速：北北西32.9m/s(10月13日3時45分：八丈島) 最大日降水量：126.0mm(10月11日：小河内)	都内全域(行方不明2軽傷6床上浸水1床下浸水1)
1991年9月18日～19日	台風第18号	9月15日沖の鳥島の南東で発生した台風18号は、その後発達しながら北上し、19日17時頃八丈島の西約15kmを通り、20時頃房総半島をかすめて進み、20日9時日本東で温帯低気圧に変わった。19日台風の影響で秋雨前線の活動が活発化し、太平洋側の広い範囲で大雨となった。また、八丈島では19日06時頃から10m/s以上の強い風が吹き出した。	最大日降水量：274.0mm(9月19日：府中) 最大瞬間風速：南27.8m/s(9月19日12時28分：八丈島)	都内全域(死者1重傷1軽傷2全壊1半壊3一部損壊10床上浸水483床下浸水2739)
1991年9月8日～9日	台風第15号	9月3日トラック島の東で発生した台風15号は、その後発達しながら北上し、9日朝には八丈島の南約60kmを北東に進み、11日日本のはるか東で温帯低気圧に変わった。八丈島では、台風の通過する8日23時過ぎから10m/s以上の強い風が吹き出した。東京では、台風の中心が東海の南500kmに達した8日日中、外側の降雨帯が東海から関東にかかり、短時間に強い雨が降った。	最大瞬間風速：東北東51.9m/s(9月9日5時6分：八丈島) 最大1時間降水量：44.5mm(9月8日8時10分～9時10分：東京)	都内全域(全壊2半壊2一部損壊46床上浸水2床下浸水16)
1991年8月20日～21日	大雨	20日24時、台風12号が種子島の南約270kmの海上にあって、約15km/hで西に進んでいた。これに伴い、台風を取り巻く強い雨雲が北上し、20日午後から広い範囲で強い雨が降った。	最大日降水量：307.0mm(8月20日：小河内) 最大1時間降水量：71.0mm(8月20日22時～23時：小河内)	都内全域(死者3行方不明者1軽傷2全壊3半壊3一部損壊1床上浸水6床下浸水21)
1991年8月1日	大雨	本州中部地方から関東内陸部にかけて太平洋高気圧の縁辺部にあたり、南海上から湿った気流が流入し大気の状態が不安定になっていた。このため、日中の気温が上昇するとともに熱雷が発生し、関東の山沿いの多摩地方から23区内にかけて激しい雷雨となった。	最大1時間降水量：70.0mm(8月1日14時～15時：小沢) 日最高気温：35.2℃(8月1日12時59分：東京)	都内全域(一部損壊1床上浸水35床下浸水82)

【気象庁 HP 掲載資料】

・ 9 月 12 日～28 日 前線、台風第 17・18・19 号

1990 年（平成 2 年）

期間	気象現象	気象状況	気象観測値	災害の状況
1990年12月11日～12日	突風	11日朝、日本海西部にあった低気圧は、発達しながら東へ進み、同日夜房総沖へ抜けた。大気の状態が非常に不安定で、低気圧から伸びる寒冷前線が活発になり、同日18時前に東京を21時前に大島を通過した。大島では、16時から雷雨となり16時30分から10分間、直径1.0cmの雹が降った。東京でも22時55分から10分間、直径0.5cmの雹が降った。また千葉県では、竜巻が発生した。	最大瞬間風速：北西25.9m/s(12月12日0時4分：東京)	江東（一部損壊1）
1990年11月27日～12月1日	台風第28号	前線が本州南海上に停滞し、28日には前線上の八丈島付近に低気圧が発生した。一方、台風第28号はフィリピンの東海上を北上した後、29日には南大東島の西側を通り、30日14時頃、和歌山県白浜町の南に上陸した。19時には勢力を弱めて温帯低気圧に変わり、北陸地方から日本海に抜けた。台風の接近により前線が活発になり、紀伊半島から関東地方にかけて大雨となった。	最大日降水量：188.0mm(12月1日：府中)	都内全域(床上浸水16床下浸水85)
1990年9月30日～10月1日	台風第20号	台風第20号は、30日午前9時すぎ紀伊半島南部に上陸した後、勢力を弱めながら東北東へ進み、東海、関東南部を通過、夜半過ぎに房総沖へ抜けて、温帯低気圧に変わった。関東以西の太平洋側では、各地で総雨量200から500mmに達する大雨となった。	最大日降水量：206.0mm(9月30日：八王子)	都内全域(半壊1一部損壊2床上浸水10床下浸水51)
1990年9月19日～20日	台風第19号	台風第19号は、大型で強い勢力を保ち、19日20時すぎ紀伊半島南部に上陸した。その後、加速しながら本州中部を縦断し、20日昼には三陸沖へ抜けた。上陸時の中心気圧945hPaは、本土に上陸した台風としては19年ぶりの強い勢力であった。また、秋雨前線を活発化させ各地で大雨となった。	最大瞬間風速：南西32.5m/s(9月20日4時45分：八丈島) 最大日降水量：113.0mm(9月19日：小沢)	都内全域(軽傷3半壊5一部損壊59床下浸水2)
1990年9月13日	大雨	秋雨前線に南から湿った暖かい空気が入り込み、13日夕から夜にかけて東京都内は大雨に見舞われた。	最大1時間降水量：34.0mm(9月13日15時～16時：新木場)	品川・大田ほか(床上浸水57床下浸水174)
1990年8月9日～10日	台風第11号	台風第11号は8日06時、日本の南で発生し北上、10日00時には八丈島の西約220kmに達し、10日7時頃、静岡県御前崎付近に上陸、時速30キロの速さで北東に進み関東地方を縦断した。その後勢力を弱め、10日夜には東北地方を通過、11日2時には三陸沖に抜けた。	最大瞬間風速：南30.8m/s(8月10日11時27分：東京) 最大日降水量：257.0mm(8月10日：小河内)	都内全域(死者1一部損壊3)
1990年1月31日～2月3日	大雪	1日、午前中に東海道沖から東北東に進んだ低気圧に北からの冷たい空気が流れ込み関東地方は大雪となった。	最深積雪：11cm(2月1日15時0分：東京)	区部・多摩地域(重傷11軽傷35)
1990年1月16日～17日	大雪	16日早朝、四国沖を発達中の低気圧が東北東に進み、関東地方の上空に北からの冷たい空気が流れ込み、関東地方は大雪となった。	最深積雪：4cm(1月16日16時0分：東京)	区部・多摩地域(重傷3軽傷13)

【気象庁 HP 掲載資料】

- ・ 9 月 26 日～10 月 1 日 前線、台風第 20 号
- ・ 9 月 11 日～20 日 前線、台風第 19 号